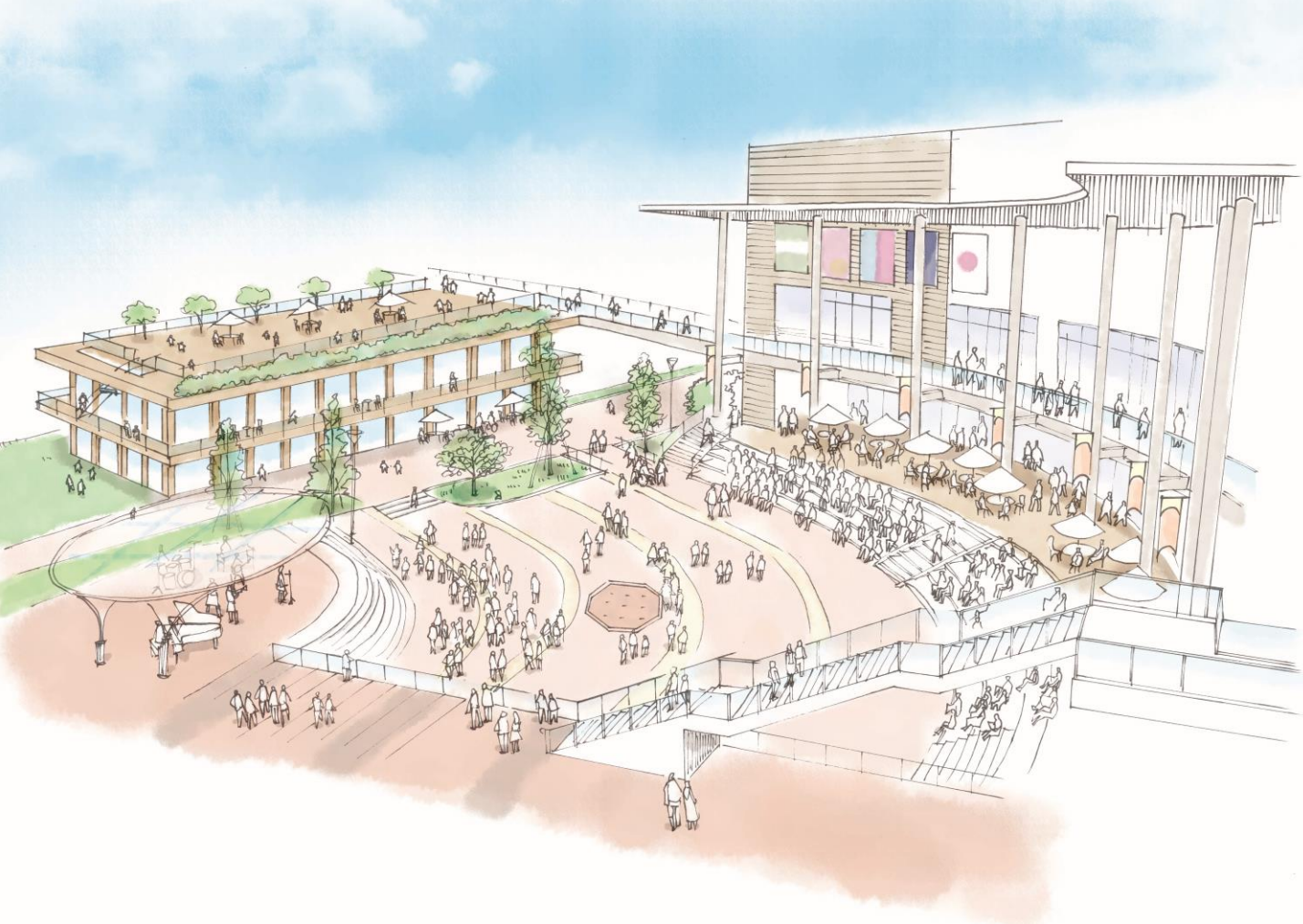




リニモテラス公益施設 整備基本計画

＜案＞

長久手市

はじめに	基本計画策定の目的	1
第 1 章	前提条件の整理	
1	上位計画、関連計画・構想	3
(1)	上位計画	3
	①第5次長久手市総合計画	
	②長久手市都市計画マスタープラン	
(2)	関連計画・構想	5
	①長久手中央地区まちづくり基本構想	
	②リニモ沿線地域づくり構想	
	③第2次長久手市観光交流基本計画	
	④古戦場公園再整備基本構想	
2	建設予定地の概要、周辺状況	10
(1)	建設予定地の概要について	10
(2)	建設予定地の物理的・法的制約	11
	①名古屋都市計画による用途地域	
	②「長久手中央地区計画」による土地利用方針	
	③長久手市美しいまちづくり条例	
(3)	近隣諸施設	13
	①各施設の概要、機能	
	②動線、景観、環境対策等	
第 2 章	4つのテーマの現状と課題	
1	4つのテーマに対する調査	19
2	各テーマに関連する本市の取組の現状と課題	21
3	各テーマに関連する主体者のニーズの把握と検討課題	25
第 3 章	利用されるリニモテラス公益施設に向けて	
1	策定委員会、市民やまちづくり団体からの意見募集	31
2	関係団体・市民、策定委員会等から得られた意見	34
3	先進事例、類似事例のまとめ	39

第 4 章 基本計画

1 リニモテラス公益施設の位置づけ	41
(1) 上位計画・関連計画等から	41
(2) 立地条件から	41
(3) 4つのテーマの現状・課題などから	42
(4) 関係団体・市民、策定委員会等の意見から	43
(5) 公益施設の位置づけ	44
2 施設コンセプト	45
3 施設コンセプトを推進するための3つのしくみ	47
4 施設整備の基本方針	49
5 施設イメージ(案)	50
6 施設運営について	51
7 今後のスケジュール	52

はじめに 基本計画策定の目的

本市は、愛・地球博の開催地としてその理念や成果を継承していくことはもちろん、開催に合わせて整備された「東部丘陵線(リニモ)」(以下、「リニモ」とする)や名古屋瀬戸道路などの都市基盤、そして昔ながらの自然や田園風景など、今後のまちづくりに活かすべき資産を多く有しています。第5次長久手市総合計画では、豊かな自然環境を保全するとともに、都市としての機能を拡充して様々な交流を育む魅力あるまちとして成長し続けるために、平成30年を目標としたまちづくりの基本方針を示しています。

なかでも、主要プロジェクトに掲げる「リニモテラス構想」では、長久手古戦場駅周辺にまちの新たな顔として「リニモテラス」を整備し、住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出することとしています。

その一画に建設を計画しているリニモテラス公益施設(仮称)は、リニモテラス構想を牽引するリーディング施設として、本市を特徴づける4つのテーマ「大学連携」「観光交流」「多文化共生」「子育て支援」を主軸にした交流拠点としての整備を計画しています。リニモテラス公益施設(仮称)の整備方針は、「リニモテラス構想」とも密接に関わってくるものであり、総合的な視点に立った整備方針を定める基本計画が求められています。

『住んでみたい、ずっと住みつづけたい』と、市内外の人びと誰からも親しまれるまちづくりを、リニモテラス公益施設(仮称)が中心となり推進していく新たな交流拠点となるよう、まちの将来を見据えた基本計画を策定します。

リニモテラス構想 (第5次長久手市総合計画の主要プロジェクト)

長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として「リニモテラス」を整備し
住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出する。



リニモテラス構想の推進拠点が「リニモテラス公益施設(仮称)」

本市を特徴づける象徴的な要素として、「大学連携」「観光交流」「多文化共生」「子育て支援」の4テーマが息づく公益施設を計画。リニモテラス構想の方針に密接に関わってくるものであり、関連する計画との整合を図りつつ、市民及び関係者などからの多くの意見・提案を集約し、施設の基本計画を策定する。

第1章

前提条件の整理

リニモテラス構想に関わる本市の上位計画、関連計画・構想等を整理し、リニモテラス公益施設に求められる行政視点からの位置づけを浮かび上がらせるとともに、基本計画策定において必要な建設予定地の概要、法的制約、周辺環境等を整理します。

1 上位計画、関連計画・構想

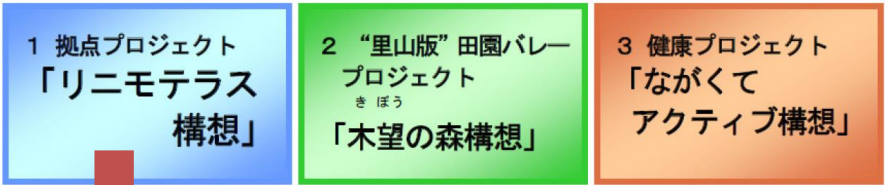
各計画・構想については、策定時の内容です。

(1)上位計画

①第5次長久手市総合計画(平成20年度策定)

本市では、将来像「人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手」の実現に向けて、今後10年間かけて重点的に推進していく先導的な3つの主要プロジェクトを掲げており、その第一として、長久手古戦場駅周辺では「リリモテラス構想」が掲げられています。

<3つの主要プロジェクト>



1 拠点プロジェクト「リリモテラス構想」

長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として「リリモテラス」を整備し、住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出します。

整備イメージ

(1) 「リリモテラス」の整備

- 「広場」および広場を囲うように「複合商業施設」を配置する一体的施設として整備します。
- リリモと広々とした空を望む「広場」
 - 住民の暮らしを支え、訪れる人をもてなす「複合商業施設」

(2) バスターミナルの整備

リリモとNーバスなど公共交通の接続を重視し、バスターミナルを整備します。

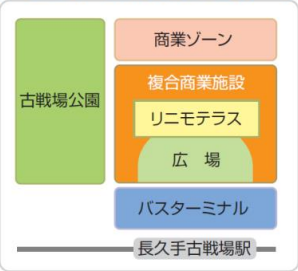
(3) 隣接する古戦場公園との連携

古戦場公園の再整備状況を踏まえてリリモテラスとの連携を検討します。

♪ 広場の活用イメージ



♪ リリモテラスおよび周辺イメージ

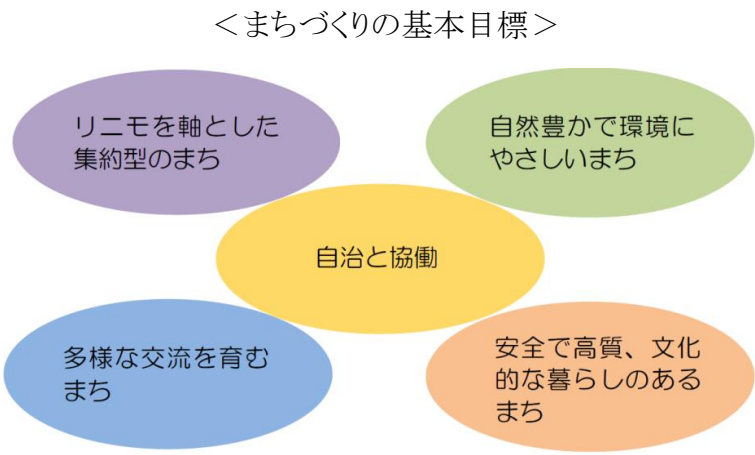


関連ポイント

まちの新たな顔として「リリモテラス」を整備

②長久手市都市計画マスタープラン(平成21年度策定)

第5次長久手市総合計画を受け、「人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手」を基本理念とし、以下の5つをまちづくりの基本目標に掲げています。



長久手中央地区の中に位置する長久手古戦場駅周辺については、本市の「シンボル・コア」(都市核)として位置づけ、新たな都市の顔となる拠点を形成します。

◇土地利用の方針

・長久手古戦場駅周辺の「シンボル・コア」については、本市の新たな都市核として、駅前広場等の交通機能の強化を進めるとともに、商業機能や行政サービス機能等から構成される複合商業施設の立地等を促進し、本市を代表する複合機能拠点の形成を図る。また、立地条件の良さを生かした「駅前居住」の実現のため、中高層住宅等の立地を複合商業施設の立地に合わせ促進する。そのため、これら機能整備にあわせ適切に用途地域の変更や地区計画の活用などを行う。

◇交通体系の方針

・「シンボル・コア」の最寄駅である長久手古戦場駅の交通利便性を高めるため、当駅を交通結節点とする公共交通、歩行者・自転車交通ネットワークを形成するとともに、本地区ともうひとつの交流拠点である市役所周辺地区とを連絡する歩行者・自転車軸を形成する。

◇みどり(公園・緑地等)の方針

・古戦場公園については、さらなる施設の充実を図るとともに、「シンボル・コア」との連絡性を高め、本市の歴史と触れ合う機会を提供する。

◇市街地・集落地の整備方針

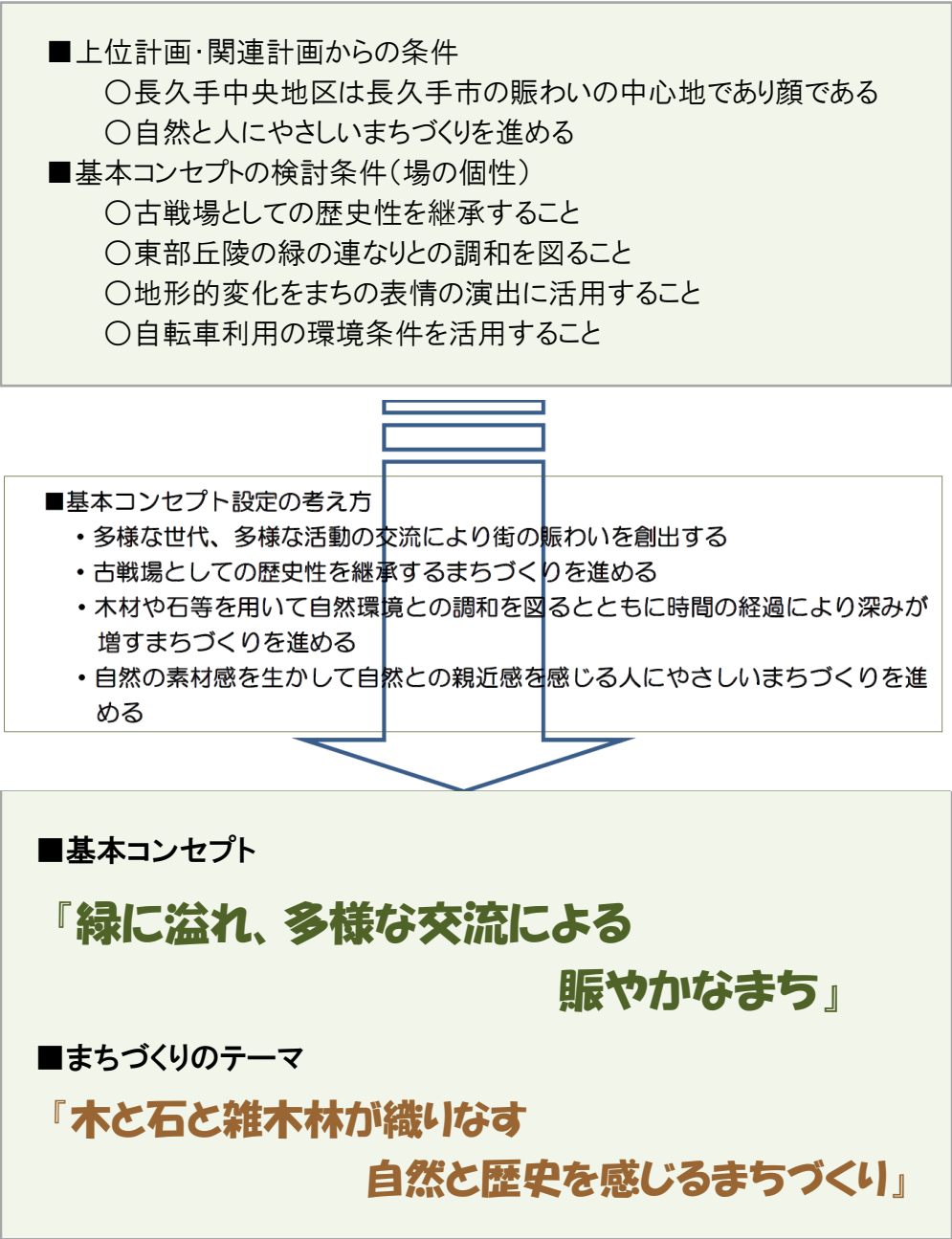
・長久手中央地区については、土地区画整理事業を促進し、本市の「シンボル・コア」にふさわしい、交通結節機能、商業機能や行政機能、「駅前居住」機能等の複合機能を有する拠点地区の形成を図る。

関連ポイント 本市の新たな都市核(シンボル・コア)を形成

(2)関連計画・構想

①長久手中央地区まちづくり基本構想(平成24年度策定)

この「長久手中央地区まちづくり基本構想」は、「長久手古戦場駅周辺整備検討会議」の5回にわたる検討結果を取りまとめたもので、本市のまちづくりに関わる諸計画(上位計画・関連計画等)における長久手中央地区の位置づけを確認した上、古戦場公園周辺の地域特性や目指すべき将来市街地像を見据えながら策定されたものです。



関連ポイント

緑に溢れ、多様な交流によるにぎわいのあるまち

②リニモ沿線地域づくり構想(平成20年度策定)

愛知県と沿線市(瀬戸市、豊田市、日進市及び長久手市)では、地域を結ぶリニモを積極的に活用した中長期的な地域づくり構想を策定しました。その中で長久手古戦場駅周辺は、以下のようにまとめられています。

駅周辺の計画的整備

【駅周辺の将来像】

- ・駅前には商業・公益サービス・レクリエーション施設等が集積し、沿線の大学生等が集う。
- ・その周りには様々な世代が住む住宅地区が広がり、コミュニティが形成される。
- ・広域エリアの拠点として、長久手市はじめ日進市など近隣市町からも絶え間なく人々が行き交う。

【将来像実現に向けた視点】

- ・多様なライフスタイルへの対応
- ・若者が集うおしゃれなまちづくり
- ・複数世代が混在したコミュニティの形成

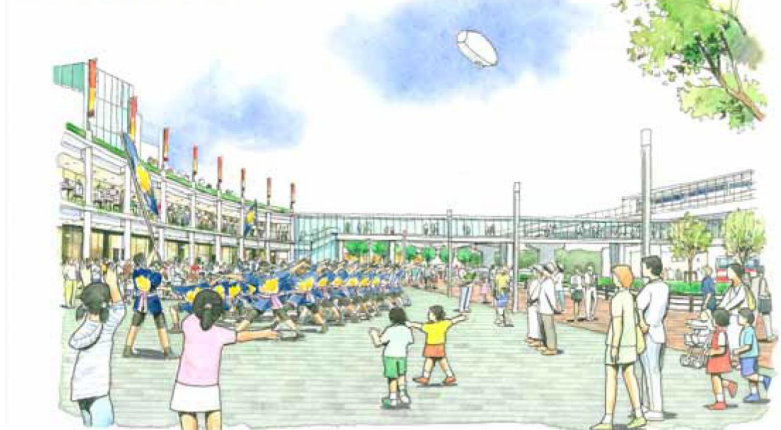
【中心的導入機能】

- ・居住機能
- ・商業・レクリエーション機能
- ・公益サービス機能

駅周辺の整備イメージ

長久手の新しいシンボル地区

駅前には商業・公益サービス・レクリエーション施設などが集積し、その周りには住宅地区が広がるなど多様な機能が凝縮されている。



- 平日の朝は、会社員、学生が、小走りに、また、自転車に乗り、駅に向かって急いでいる。
- 夕方になると、仕事を終えた若い親が、わが子を迎えに行くついでに、夕食の買い物をするマイバッグを片手に歩いている。
- 近隣大学の学生が、リニモテラス*の中にある大学連携施設に集まり、テラスで行うイベントの打合せを夜遅くまで行っている。
- 夜は、店員も学生アルバイトが多く、活気に溢れた店内で、仕事帰りの会社員、大学生がにぎやかに一日の疲れを癒している。
- 休日の駅周辺は、商業施設に買い物へ行く家族連れや、愛知県県論義運動公園でスポーツをする若い人たちが行き交っている。商業施設の中心に位置する広場では、イベントが多く開催され、にぎわいの中心となっている。
- 古戦場公園へ向かう途中の店では、お土産などが販売されている。

*リニモテラス:長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として構想されている、広場とそれを囲む複合商業施設

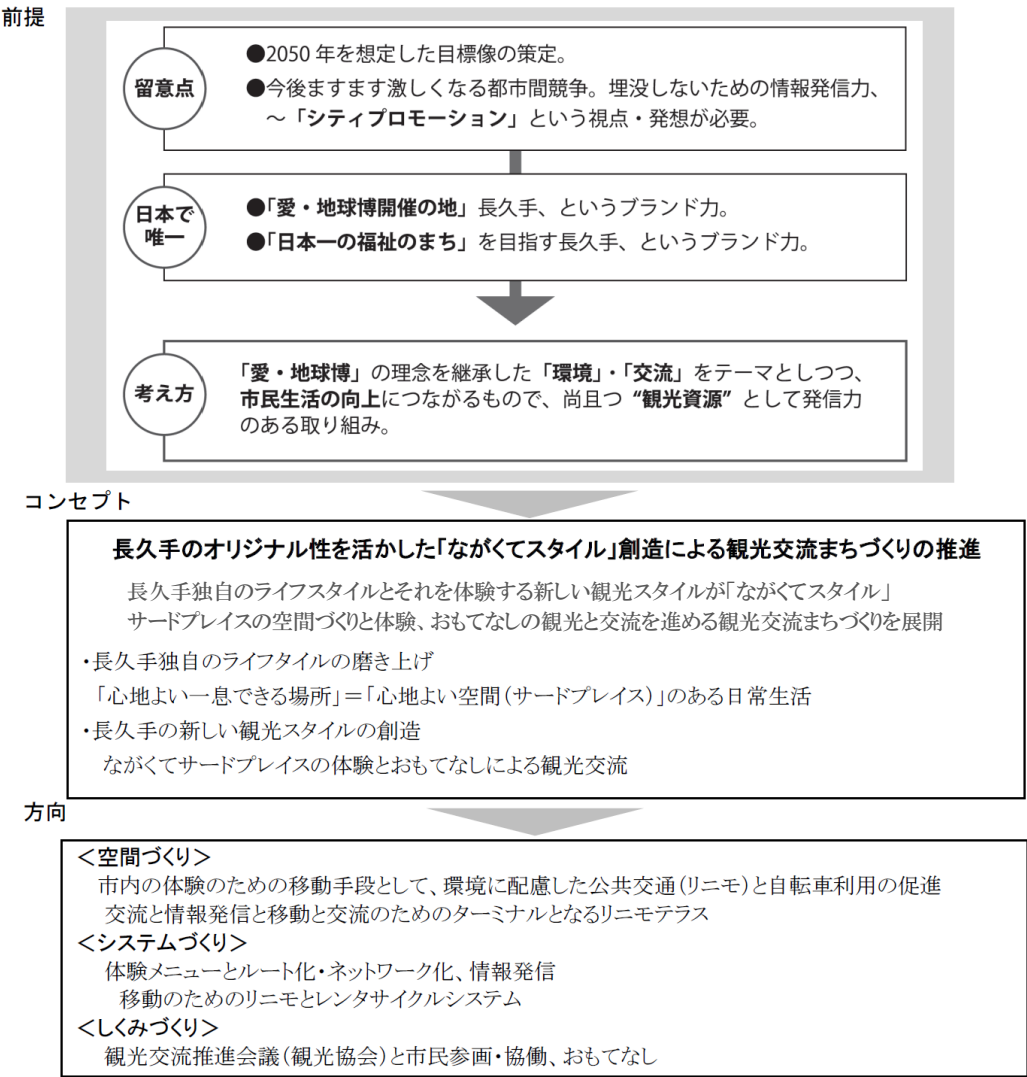
関連ポイント

- ・多様なライフスタイルへの対応
- ・若者が集うおしゃれなまちづくり
- ・複数世代が混在したコミュニティの形成

③第2次長久手市観光交流基本計画(平成26年度策定)

本市には、独自のライフスタイル(おしゃれな店、田園風景のある暮らし・土や緑に触れる場所、ゆったりした時間を過ごせる公共空間、アートのある暮らしと空間など「心地よい一息できる場所」をもった日常の生活)があります。これが市外の人にとっては「いい日常」であり、体験してみたい長久手の資源になります。

市民だけでなく、本市を訪れる人に、このような「心地よい一息できる場所」＝「心地よい空間(サードプレイス)」を提供し体験してもらいます。このような体験をめざして、長久手を訪れてみたい、本市に住んでみたいと思ってもらえる空間づくり、おもてなしと体験、市民との交流をあわせたまちづくりが「観光交流まちづくり」であり、これを長久手オリジナルの観光として展開していきます。長久手独自のライフスタイル「いい日常」を磨き上げ創造し、「ながくてスタイル」として提供します。「ながくてスタイル」とは、長久手独自のライフスタイルであり、新しい観光スタイルです。



関連ポイント

「心地のよい空間(サードプレイス)」づくり
～ 交流と情報発信・移動と交流のためのターミナル～

④古戦場公園再整備基本構想(平成26年度策定)

古戦場公園には、以下の3つが課題として挙げられます。

- 第5次長久手市総合計画の主要プロジェクトの一つであるリニモテラス構想や長久手中央地区まちづくり基本構想をはじめとした計画の中では、まちづくりにおいて、古戦場公園との連携が謳われており、歴史文化を継承し、郷土の歴史を学び親しむ場として再整備を行う必要がある。
- 古戦場公園内にある長久手古戦場野外活動施設は、老朽化が進んでいることから、施設を含めた古戦場公園一帯を有効活用できるよう見直す必要がある。
- 古戦場公園の東側では、現在長久手中央土地区画整理事業が進められており、大型店舗が進出することから、市民の貴重な財産である文化財を保存継承し、歴史文化を活かした観光資源として魅力ある公園整備を行う必要がある。

上記の課題を踏まえ、古戦場公園の再整備に向けて基本的な方針を検討し、基本構想として定めています。

【基本コンセプト】

《シンボル・コアに「顔」をつくる》

～「古戦場の記憶」という、長久手ならではのアイデンティティを活かす～

- ・「古戦場の歴史」「新たな都市文化の出会い」をテーマに
- ・古戦場公園、リニモテラス、大規模商業施設等が連携して多くの市民が集まり活動し、地域情報を外部へ発信する地区を形成する

関連ポイント

古戦場公園との連携の必要性
多くの市民が集い活動し、地域情報を外部へ発信

《秀吉と家康が戦い、歴史が動いた。ここ長久手で。》
～古戦場をめぐり、体感する。訪れてみたくなるフィールドミュージアム～

長久手の地域まるごと歴史博物館の形成を掲げ、古戦場公園の施設再整備構想

■ 基盤となる位置づけ

「歴史の大舞台」

羽柴（のちの豊臣）秀吉と徳川家康が直接戦った「小牧・長久手の戦い」は、我が国の近世史の大きな出来事であり、長久手古戦場は1584年、この戦いの主戦場となった「**武士の歴史**」の舞台である。

長久手の原風景「里山回廊」と農民の生活文化

- ・長久手古戦場周辺は、長湫、岩作、上郷、3つの地区の接点であり、香流川に代表される水辺空間とそれに沿った農地、里山、集落が、上記の「武士の歴史」の舞台となる原風景として残っていた。
- ・武士の歴史の影でそれを支えた「**農民の生活文化**」が、「警固祭り」「棒の手」などの祭事等として継承されている。

■ 今後付け加えていく位置づけ（新たな都市拠点機能の配置）

「リニモテラス」(+大規模商業施設)

観光に関する情報発信の場、大学をはじめとする連携の場、多くの人が集まるイベントの場

■ 古戦場公園再整備の基本コンセプト

《シンボル・コアに「顔」をつくる》

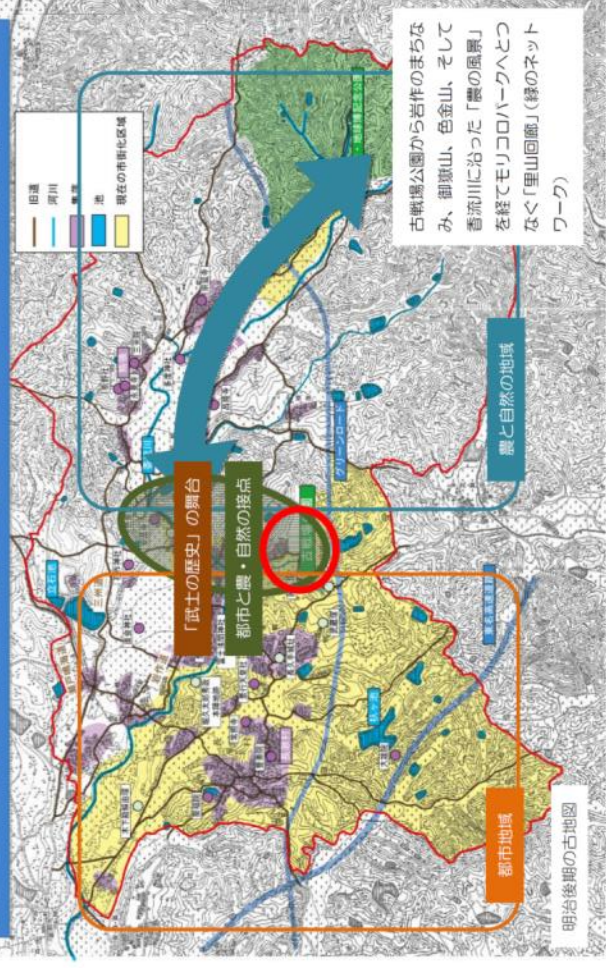
- ～「古戦場の記憶」という、長久手ならではのアイデンティティを活かす～
- ・「古戦場の歴史」「新たな都市文化の出会い」をテーマに。
 - ・古戦場公園、リニモテラス、大規模商業施設等が連携して多くの市民が集まり活動し、地域情報を外部へ発信する地区を形成する。

長久手の「郷土の記憶」

「古戦場の史跡」プラス「地域一帯の田園風景」

岩作から上郷にかけての地域一帯の自然地形（里山と香流川）と農業集落の生活文化が総体となって「小牧・長久手の戦い」の記憶をしるしている。

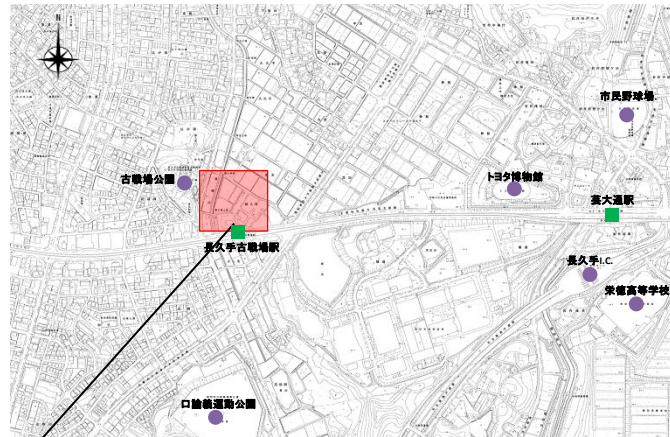
長久手には、地域のいたるところに「古戦場の記憶」や「農民の生活文化」をたどる歴史の道がある。その玄関口にあたる古戦場公園を、フィールドミュージアムの拠点と位置づける。



【フィールドミュージアムとは？】

「エコミュージアム」とも呼ばれる。歴史、文化、生活、自然など、地域の社会環境と自然環境の特色をまるごと現地で保存、育成、展示する博物館の形態であり、行政と住民が一緒に構想し、運営していくことにより、地域の歴史・文化・生活などを住民が自ら認識する場であるとともに、来訪者に地域のことを理解してもらうための場でもある。
(文部科学省資料「エコミュージアムについて」より抜粋・編集)

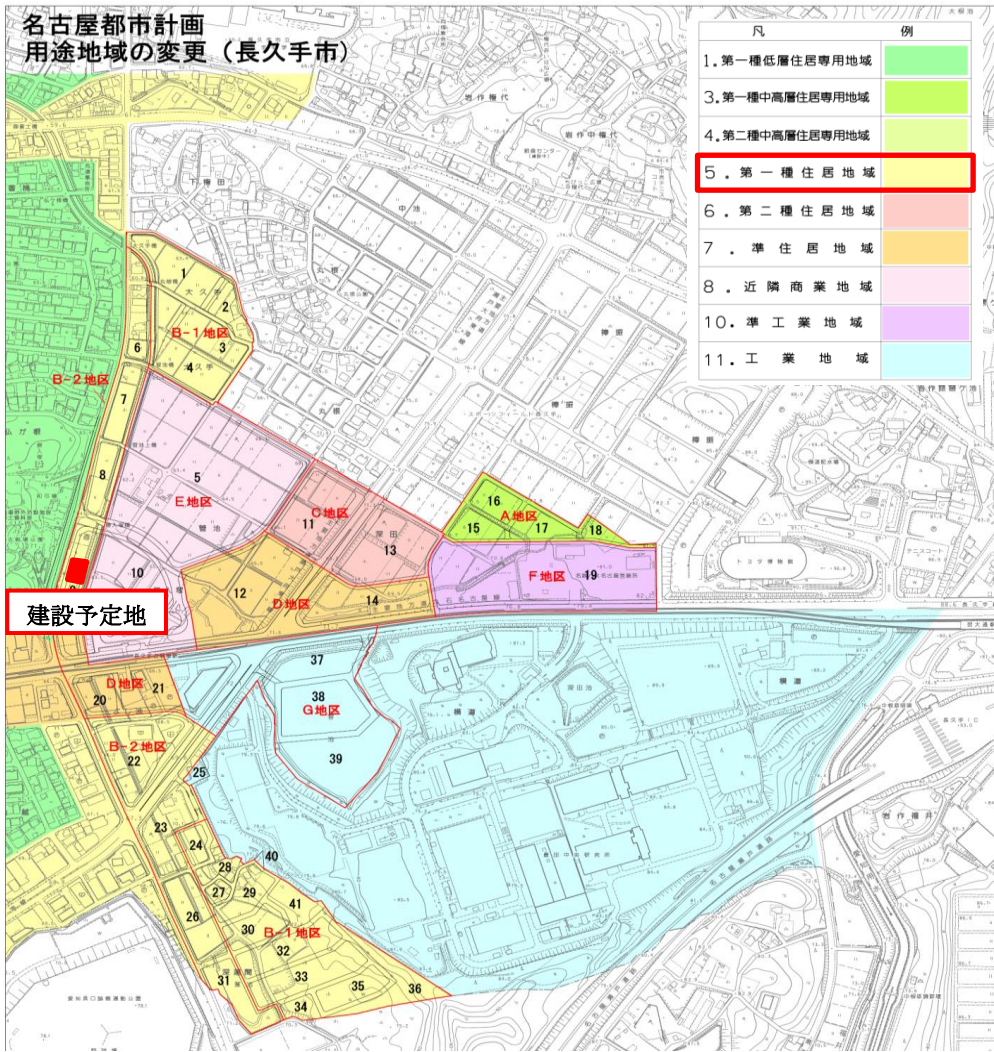
建設予定地の東隣には市道下権田勝入塚1号線を挟み、国指定文化財であり本市の重要な観光資源となっている古戦場公園が隣接しています。



(2)建設予定地の物理的・法的制約

①名古屋都市計画による用途地域

建設予定地は名古屋都市計画により、市街化区域に指定されています。用途地域は第1種住居地域に指定されており、建蔽率は60%、容積率は200%となっています。



②「長久手中央地区計画」による土地利用方針

建設予定地はさらに、長久手中央土地区画整理事業に伴い長久手中央地区計画が決定されている地域となり、それぞれの場所において区分が設けられ、各区分ごとに土地利用方針が定められています。

建設予定地の地区計画上の地区はB-2地区であり、その土地利用方針に従う必要があります。

3 B-2 地区

中高層住宅を中心とした良好な住環境と店舗や業務施設等の都市的機能の共存を図れるよう、建築物等の用途の制限、壁面の位置の制限、建築物等の高さの最高限度、建築物等の形態又は色彩その他の意匠の制限を行う。

第1章 前提条件の整理

- 次に掲げる建築物は、建築してはならない
- 1.ホテル又は旅館 2.ボーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場又は
バッティング練習場 3.公衆浴場 4.自動車教習所 5.床面積の合計が15㎡を超える畜舎
6.工場
- 壁面位置の制限／建築物の外壁から隣地境界線までの距離は、0.75m以上とする。(但し書きあり)
- 建築物の高さの最高限度／20m
- 建築物の形態・色彩等／敷地内の広告物または看板は、自己の用に供するものに限定する。

■建築物の用途規制

		1 第1種低層住居専用地域			3 第1種中高層住居専用地域			5 第1種住居地域			6 第2種住居地域			7 準住居地域	8 近隣商業地域	10 準工業地域	11 工業地域
		×	○	△	×	△	○										
		用途地域で立地が禁止されている建築物			用途地域で立地が認められている建築物			地区計画で立地を禁止していく建築物			地区計画で立地を一部禁止していく建築物			立地を認めていく(一部を含む)建築物			
地区区分	南部地区該当区分	A 南部	B 南部		C-1 南部	C-2 南部		D-1 南部	D-2 南部	D-3 南部	D-4 南部		E 南部			F-1 南部	F-2 南部
	中央地区該当区分				A 中央					B-1 中央	B-2 中央		C 中央	D 中央	E 中央		F 中央
	公園西地区該当区分				A 公園西	B 公園西							C 公園西	D 公園西	E 公園西		
	下山区該当区分					A 下山						B 下山					G 中央
建築物の敷地面積の最低限度		250㎡ 200㎡			200㎡												
壁面位置 隣地境界線		0.75m	1.5m	1.0m	0.75m	0.75m	0.75m	1.0m	0.75m	0.75m	0.75m	0.75m	0.75m	0.75m	0.75m	0.75m	0.75m
" 道路境界線																	
建築物等の高さの最高限度		(10m)	(10m)	(10m)	15m	12m	15m	12m	15m	20m	12m	15m	30m	20m	20m	20m	20m
建築物等の形態又は意匠の制限		(※)	(※)	(※)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
垣又はさくの構造の制限		②	②	②	②	②	②	②	②				②				
建ぺい率の最高限度																	
容積率の最高限度																	
建築物等の用途の制限	住宅、共同住宅、寄宿舎、下宿	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	兼用住宅	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	店舗	×	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	事務所	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	ホテル、旅館	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	ゴルフ練習場、スキー場	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	ボーリング場、スケート場、水泳場	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	バッティング練習場	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	カラオケボックス	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	パチンコ、マージャン屋、射的場、勝馬投票券販売所	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	ゲームセンター	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	映画館、劇場、観覧場	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	キャバレー、ダンスホール	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	風俗営業、個室付浴場等	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	公衆浴場(スーパー銭湯)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	診療所、保育所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	老人ホーム、特別養護老人ホーム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	老人福祉センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	幼稚園、小中学校、高等学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	大学、専門学校	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	図書館	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	郵便局、派出所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	神社、寺院、教会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	自動車教習所	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	倉庫業倉庫	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	畜舎(15㎡を超える)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	自動車修理工場	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	危険性が少ない施設(作業場床面積≤50㎡)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	少ない施設(作業場床面積≤150㎡)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	やや多い施設(作業場床面積>150㎡)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	危険性が大きい施設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	石油類がス等危険物の貯蔵施設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	量が非常に少ない施設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	量が少ない施設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	量がやや多い施設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	量が多い施設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

③長久手市美しいまちづくり条例

本市の環境を活かした魅力あるまちづくりのためには、地域が一体となって良好な環境を守り、育てていくことが大切であるとの認識のもとに、魅力ある景観の保全と創出、良好な住環境の形成、みどりの推進及び環境美化の推進に関する基本的な事項を定め市内における無秩序な開発を防止し、良好な住環境を形成するため、一定の開発事業の施行に際し、法令に基づく許可申請等の手続きの前に規則に定める基準により市と協議することとしています。

(3)近隣諸施設

①各施設の概要、機能

ア 長久手中央地区2号公園

イベント対応型の公園として各種催しを楽しむことができる場とし、老若男女が集う「にぎわい空間」として整備。大規模なイベントにも対応可能な観覧席や屋根付きのステージスペースを設置しています。敷地面積は約2,000㎡で中央には間欠噴水が設置されています。



イ 長久手古戦場駅前広場

古戦場跡としての歴史的背景と丘陵地の緑と調和したにぎわいのある駅広空間の創出をテーマに整備。

敷地面積は約6,500㎡でバスターミナルを有し、N-バスや民営バス、また大学のスクールバスが発着することから、市内回遊ネットワークの重要な交通結節点となっています。



ウ 古戦場公園

小牧・長久手の戦いの主戦場跡地。公園化されていて、園内には、武将の塚(国指定史跡)や長久手市郷土資料室のほか古戦場を縮景という手法で表現した広場があり、史跡めぐりの起点となる公園です。

平成26年度には古戦場公園再整備基本構想を策定し、「訪れてみたい」「体験してみたい」施設として、持続的に魅力づくりを行う「歴史を体感するフィールドミュージアム(野外博物館)」として位置づけ、再整備計画を進めています。

エ 大型商業施設

敷地面積約46,000㎡で平成28年12月に開店予定。地上2階建ての駅前棟と地上4階建ての本棟に分かれます。それぞれの棟は連絡通路で繋がり、駅前棟の2階は長久手古戦場駅とペデストリアンデッキで接続しています。

②動線、景観、環境対策等

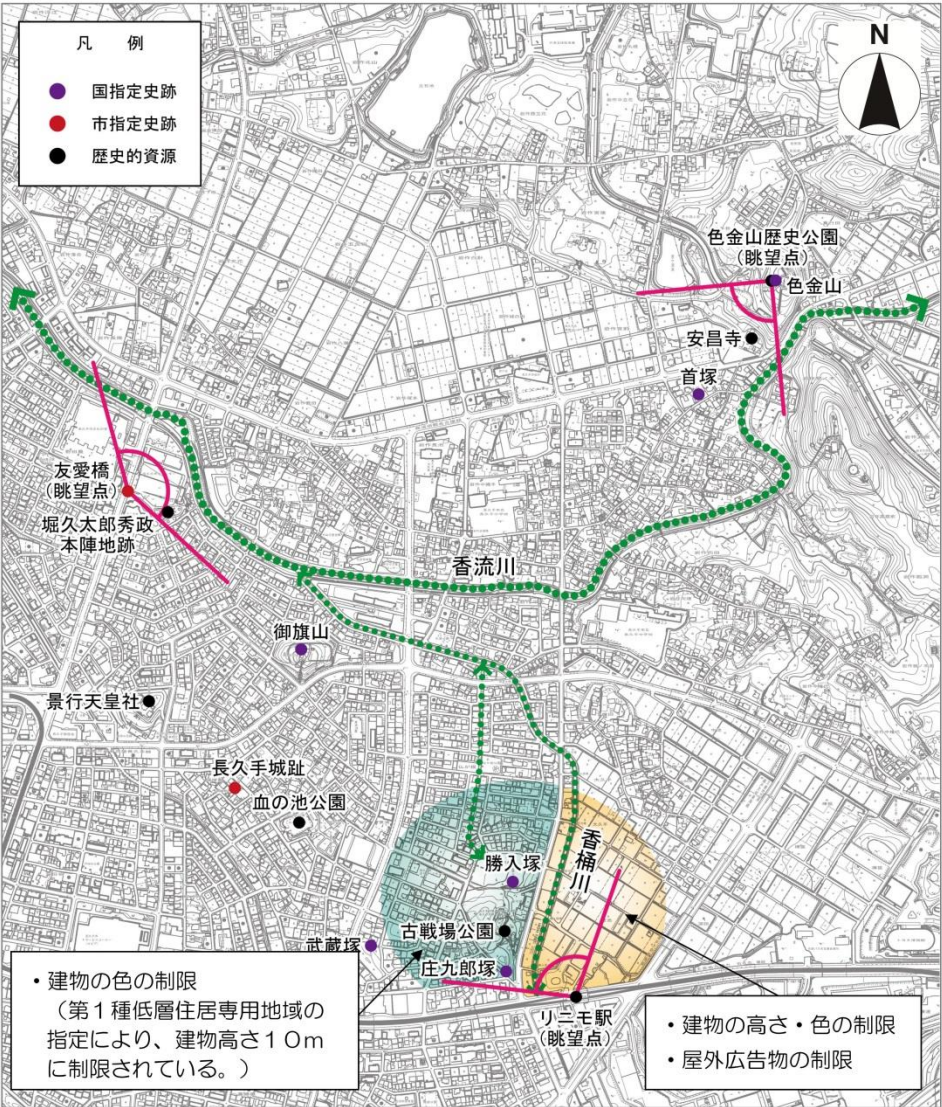
ア 動線

リニモテラス公益施設の整備にあたり、長久手古戦場駅からの有効な動線を確保する必要があります。また、隣接する大型商業施設からの誘客や古戦場公園との連携を促すような動線についても考慮する必要があります。

イ 景観

平成26年度に策定された古戦場公園再整備基本構想において、古戦場公園東側エリアについては、長久手古戦場駅からの眺望等の景観への配慮を求められています。

- 7) 古戦場公園周辺のネットワーク及び建物のあり方
- ・長久手古戦場周辺の歴史的資源を緑道や香流川を利用して、ネットワークさせて結び、周遊性を高める。
 - ・古戦場公園周辺については、建物の高さや色彩に制限を設けるなど、景観への配慮を今後検討していく必要がある。
- 特に、古戦場公園東側については、屋外広告物の制限の強化を合わせて検討する。



また、長久手古戦場駅周辺の公共施設(公園、駅前広場、道路等)については、統一的な視点をもって一体整備を進めるため、トータルデザインに関する基本方針及びその実現に向けた具体的な取組の方策等が平成25年度事業「リニモ長久手古戦場駅周辺公共施設トータルデザイン設計業務委託」により示されています。その中において、デザインに関するコントロール方針が、以下のとおり設定されています。

テクスチャコントロール ⇒ 地区の美観や景観の統一性を保つために必要となる公共施設が備えるべき**素材感や質感**についての考え方

カラーコントロール ⇒ 地区の美観や景観の統一性を保つために必要となる公共施設が備えるべき**彩色や配色**についての考え方

グラフィックコントロール ⇒ 地区の歴史の継承や多様な活動の交流等の推進に必要な公共施設が備えるべき**図案や表示方法**についての考え方

I. テクスチャコントロール

【基本方針】

- ・木・石・鋼の質感を大切に、公共施設等の選定を行います。
- ・古戦場跡・雑木林・都市景観のいずれにも調和する肌合いを有した施設選定を行います。

II. カラーコントロール

【基本方針】

- ・小牧長久手の戦いに用いられた武器具やその当時の原野や大地をイメージさせる色彩を取入れます。
- ・アクセントカラー等を取入れる場合は、日本に昔からある色調のナチュラルカラーを用い、上質で落ち着いた公共空間の印象を崩さないよう配慮します。

III. グラフィックコントロール

【基本方針】

- ・「小牧長久手の戦い」や「古戦場」を想起させるシンプルな模様・造形を公共施設の姿や舗装パターン、施設形状等に取り入れます。
- ・サイン等の案内標示は、多言語表記とする他、設置位置等にも留意し、性別や国籍、年齢等に捉われることなく、誰もが容易に意味を理解できる内容とします。

ウ 環境対策

平成21年度に策定された長久手市緑の基本計画(計画期間平成22年度～30年度)において、建設予定地周辺は、都市的土地利用を行う場合、自然環境との調和が図られるよう、現況植生の保善や緑地の確保に努めることとしており、重点的に公共施設と民有地の緑化を図る地域としています。

また、平成22年度に策定された第3次長久手市環境基本計画(計画期間平成23年度～32年度)では、リニモ沿線の低炭素都市づくりの促進を重点プロジェクトとして掲げ、建設予定地周辺整備について、地球温暖化防止や環境共生への貢献をテーマとしています。

重点プロジェクト事業名 [第4章の施策との関係]		事業の内容		
1. リニモ沿線におけるモデル的な低炭素都市づくりの促進 1-3.地球にやさしい都市づくり (1)集約型都市構造の実現 ①リニモ沿線の利便性向上		●リニモ長久手古戦場駅前に公共交通を核とした新たな拠点として、リニモテラスを整備します。施設整備においては、地球温暖化防止や環境共生への貢献をテーマとします。 ●リニモ駅周辺においては、環境に配慮した住宅地開発、エコ住宅の建設促進、カーシェアリングの導入等により、低炭素型都市づくりを促進します。		
平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
計画の立案		整備の実施・促進		供用の開始

第2章

4つのテーマの現状と課題

リニモテラス公益施設で想定している4つのテーマについて、本市の担当主管課の取組における現状と課題を整理するとともに、関連する市民団体等の多様な主体が抱える課題やニーズを把握し、リニモテラス公益施設が受け止められるポイントを抽出します。

1 4つのテーマに対する調査

基本計画策定に先立ち、取り込みたいと考える4つのテーマに対し、行政及び主体的に活動している団体等にヒアリングまたはアンケートを実施し、その現状と課題を以下に整理しました。

<4つのテーマ>

①大学連携

市内には4つの大学、また周辺にも多くの大学が立地しており、多くの大学生が、市内に居住し、生活圏内としているため、大学の持つ人材・知識・ノウハウ等で大学が社会に関与しやすいまち

②観光交流

優良な住宅市街地と里山や田園風景等の自然が共存し、新しさと歴史が混在する環境を活かした他の市町村には無い長久手オリジナル観光が提案できるまち

③多文化共生

古戦場を介したベルギー王国ワテルロー市との提携や愛・地球博の開催地として、国際化、多文化共生についての理解・支援に積極的なまち

④子育て支援

福祉の充実を大切にするまちであり、区画整理事業等による新しい住宅街の形成により、子育て世帯の流入も多く、子育て支援活動のネットワークに対してのニーズが高いまち

【調査方法】 アンケート・ヒアリング

4つのテーマに関連する行政主管課・各種団体を対象に(次ページにて紹介)、それぞれの現状調査を行うとともに、リモテラス公益施設の概要を説明し、その場において口頭で意見交換を実施した。欠席者等については、アンケート用紙を用いて情報を収集した。

【調査団体】

分野	対象団体名
大学連携	愛知県立大学
	愛知県立芸術大学
	愛知淑徳大学
	愛知医科大学
	リニモ沿線合同大学祭実行委員会
	DoNabe Net in あいち
	SCCC（Student Community Collaboration Center）
	長久手市くらし文化部たつせがある課
観光交流	長久手市観光交流協会
	長久手市くらし文化部産業課
多文化共生	長久手市国際交流協会
	長久手市くらし文化部たつせがある課
子育て支援	子育てサロン メープル
	長久手市福祉部子育て支援課

2 各テーマに関連する本市の取組の現状と課題

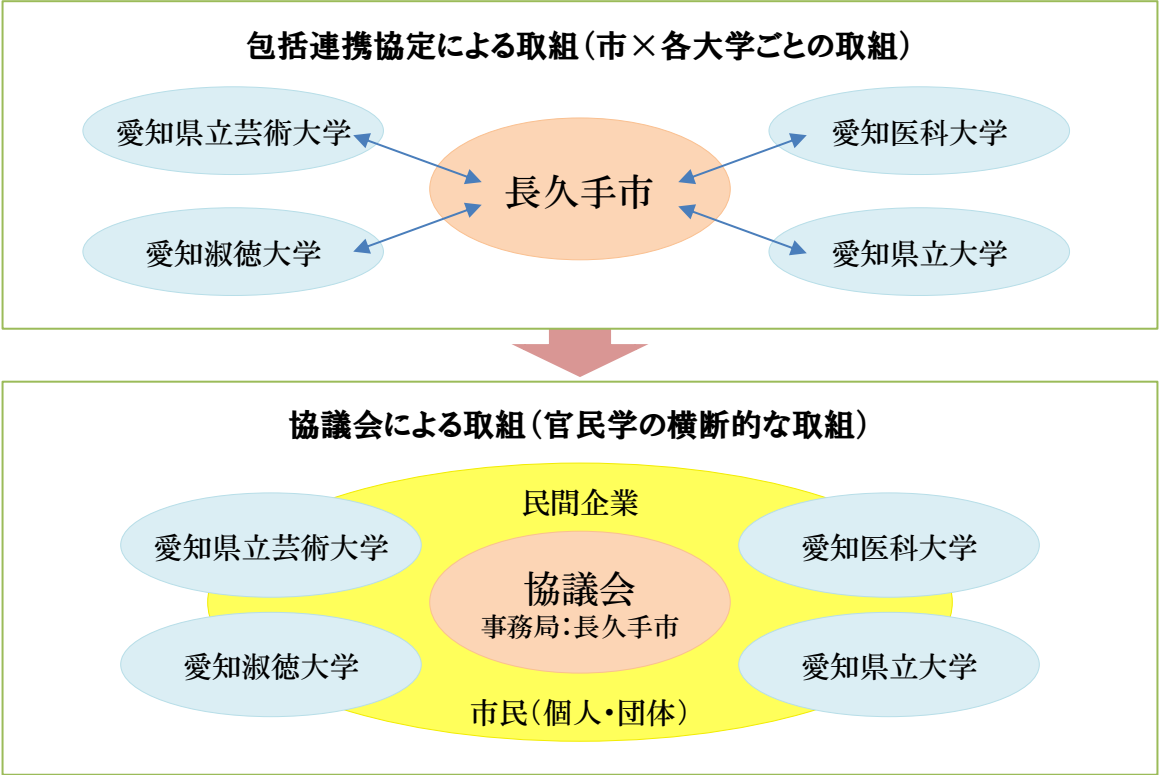
本市の「大学連携」施策について

本市は、市内4大学(愛知県立芸術大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学、愛知県立大学)ならびに周辺大学と協働し、さまざまな取組を行っています。その中で「大学をまちづくりに活かす」ことを基本施策に挙げる第5次総合計画に基づき、平成22年度から市内4大学と協働した事業を円滑かつ活発に進めるため、個々に包括的な連携協定を締結しております。

そこで、まちづくりにおいて各大学が有する知的資源や特色を活かし、学術研究の場や機会を大学に提供するなど、相互の発展や充実に向けて組織的な連携を深めるため、本市と市内4大学は、平成24年に長久手市大学連携推進協議会(以下「協議会」という)を設置しました。

本協議会は、各大学との個別の取組を主体としてきたものを、今後は、協議会設立のメリットを生かし、横断的な連携も含めて、これまで以上に大規模かつ魅力的な事業を可能とする環境づくり、システムづくりなどを行い、相互に発展していくことを目指します。また周辺大学とも連携を深め、将来的には包括的連携協定締結も視野に入れた協力が考えられます。

なお、現時点では、各大学と本市の連携事業は実施しているものの、大学同士の連携や企業も含めた地域との連携にまでは発展していないため、今後の課題ととらえています。



官民学が横断的な連携をとることにより、相互発展を促進する施策づくりへ

今後の課題

- 大学連携にふさわしいテーマの調査・発掘・提案
- 大学連携活動の促進につながる場の確保(企画・制作・実践・ストック)
- 大学連携による官民学それぞれにメリットがある取組の検討

本市の「観光交流」施策について

平成26年度策定の「第2次長久手市観光交流基本計画」に従い、本市にある日常的な資産(多種多様な「いい日常」)を中心とした観光交流を活用し、まちづくりの推進が始まっています。

具体的には、平成27年に、行政が主体となり事務局運営をしていた長久手市観光交流推進会議から、専任の事務局員を置き、より魅力的な観光交流施策の推進母体として、民間主導の長久手市観光交流協会(以下、観光交流協会)が発足しました。(しくみづくり)

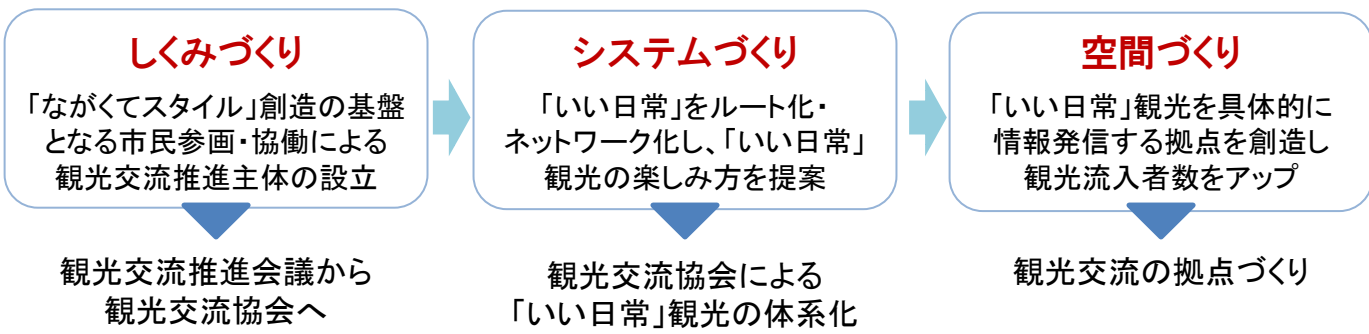
観光交流協会は、「いい日常」の顕在化やルート化などにより、「いい日常」観光の楽しみ方を積極的に提案し、回遊できる支援システムの構築などを検討することや(システムづくり)、それらの情報を集約し、効果的に発信する観光交流の推進拠点となる場の確保(空間づくり)、さらに「いい日常」を磨き上げ、より魅力的な「ながくてスタイル」の創造のため、市内外を問わずさまざまな団体との積極的な連携が求められます。

第2次長久手市観光交流基本計画

長久手のオリジナル性を活かした「ながくてスタイル」創造による観光交流まちづくりの推進



観光交流まちづくりの具体化に向けて



観光交流協会と連携し、観光交流・情報発信を推進する施策づくりへ

今後の課題

事業主体の収益力アップ・自立の道の模索
観光交流・発信力のある拠点の開発
市民参画・協働の発展形として、他団体との連携の推進

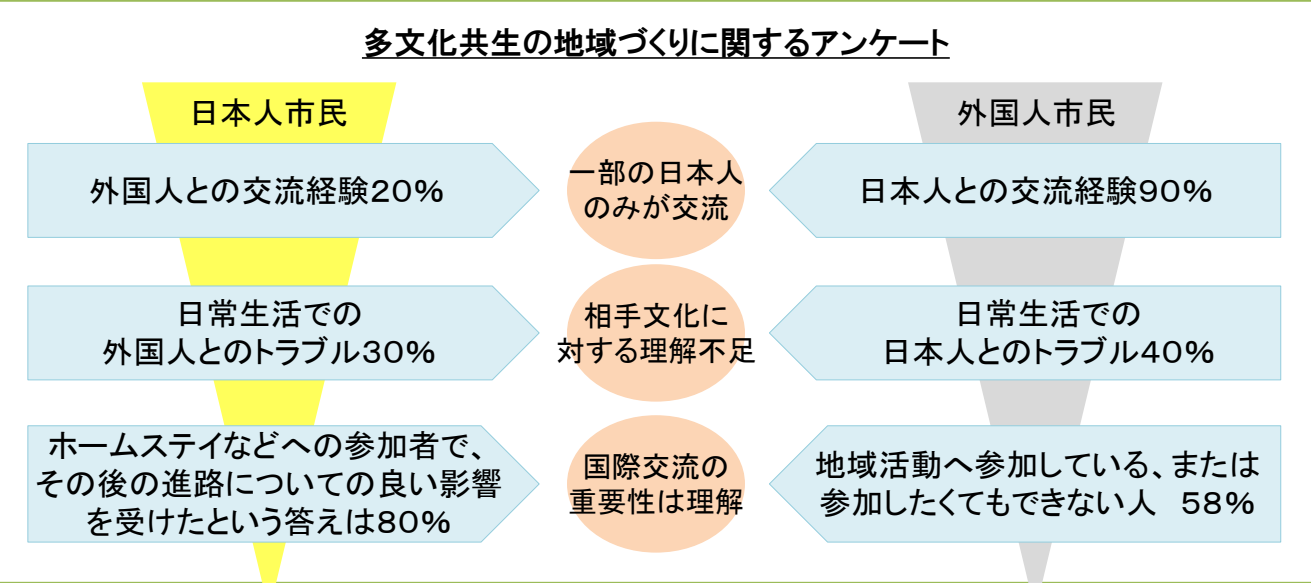
本市の「多文化共生」施策について

平成4年に、本市がベルギー王国ワテルロー市と姉妹都市提携を結んだことを契機に、国際化事業ならびに国際交流事業の拡充が望まれるようになりました。行政としては、各種表示や印刷物の多言語化などの整備や、日本人市民と外国人市民との交流推進を目指した環境づくりなどの施策を推進しました。

その中で広く市民と行政が一体となって国際交流を推進する母体として、平成6年、長久手市国際交流協会が設立されました。協会の主な取組として、姉妹都市提携後行ってきた青少年友好親善訪問団相互派遣事業への協力や、各種国際交流事業、外国人市民への日本語支援などを実施しています。

本市としては、今まで推進してきた国際化・国際交流中心の施策から、異なる文化を持つ人たちも同じ地域住民であるという意識を市民で共有し、共生を目指す多文化共生社会の実現に向けて、施策の転換を図る必要があります。

今後、日本の国際化が進み、仕事や観光などの目的で本市への外国人来訪者の増加が予想される中、外国人にとって必要な情報やサービスを積極的に提供していきます。また外国人目線でのコミュニケーション方法や、周辺大学の留学生との幅広い交流機会の創出などを国際交流協会と連携して推進し、外国人が社会参加しやすい環境づくりを行い、多文化共生社会実現への市民意識の下地づくりを推進します。



国際交流協会と連携し、異なる文化を持つ人々が共生・協働する社会を推進する施策づくりへ

今後の課題

外国人目線での情報やサービス、その提供方法の模索
外国人が参加したくなる多彩な機会と場づくり
多文化共生社会実現のための施策の検討

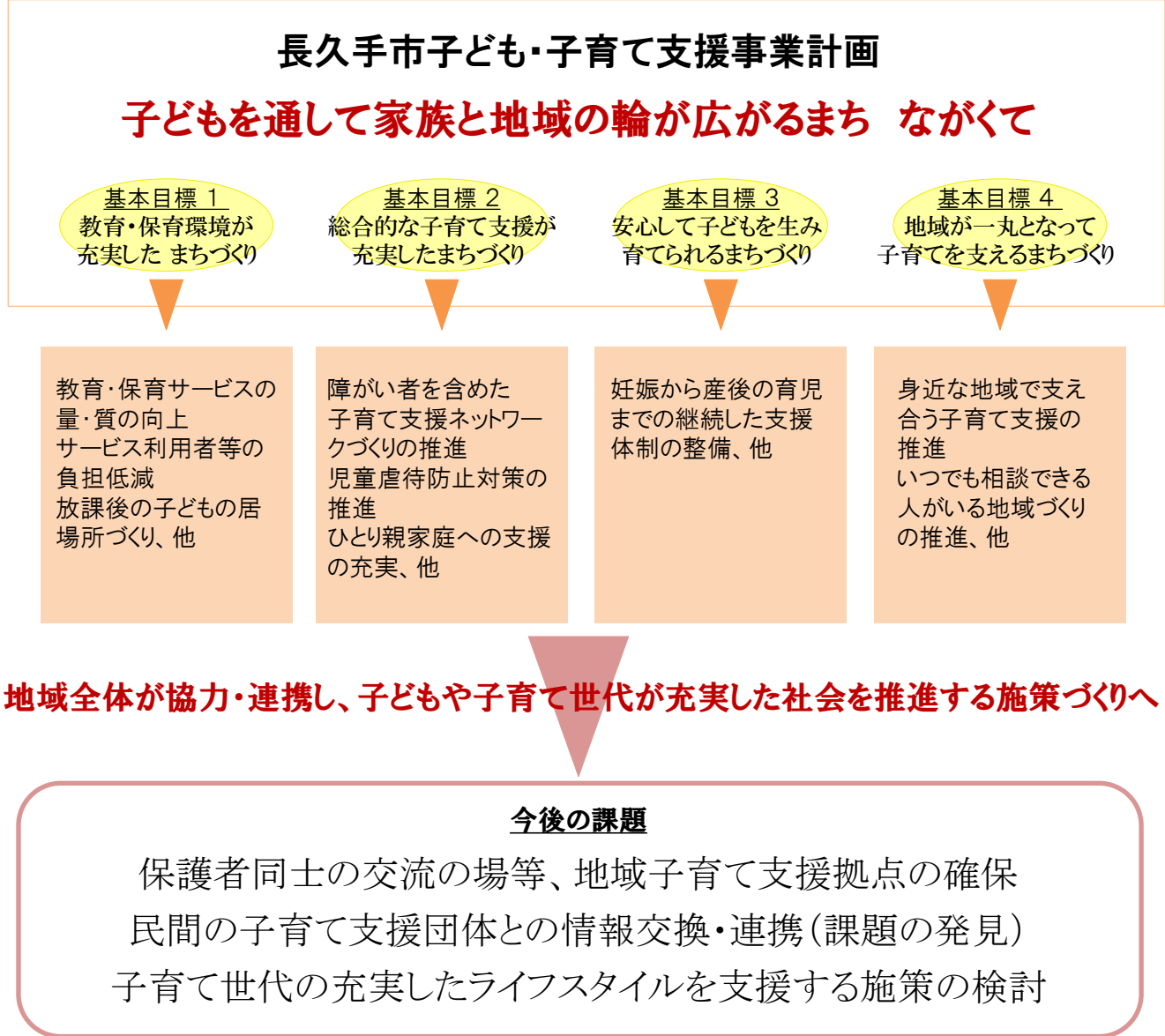
本市の「子育て支援」施策について

共働き世帯の増加等により保育等の子育て支援に対するニーズが拡大・多様化しており、国は「子ども・子育て支援法」を含む子ども・子育て関連3法を成立させ、平成27年度から同法に基づく「子ども・子育て支援新制度」を施行しています。本市においても、同法に基づき、地域の子育て支援施策の拡充に向け、「長久手市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、今後5年間で取り組むべき内容を提示しました。

この計画では、「子どもを通して家族と地域の輪が広がるまち ながくて」を基本理念に、4つの基本目標と目標ごとの施策の柱を定めています。

計画の推進にあたっては、本市の取組に加え、保育所、幼稚園、学校などの関係機関や地域住民など、地域全体の協力が必要不可欠です。本市も教育・保育環境の充実(放課後子ども総合プランなど)や子育て支援のための拠点整備事業をはじめ、出産、乳児、未就学児そして児童まで、切れ目のない支援に向けた施策づくりを推進しています。

こうした「子ども」に対する支援とともに、「子ども」を育てる直接的な役割を担う「パパ・ママ」の子育て世代が、充実した子育てライフスタイルを形成するための多面的な支援を推進していきます。



3 各テーマに関連する主体者のニーズの把握と検討課題

「大学連携」について

愛知県立芸術大学

- ・広報、PRの場としての期待（公開講座、入学説明会の場として活用したい）
- ・公開講座は4大学合同のサテライト講座も考えられる（冊子を作ってPR）
- ・協議会で情報交換を行い、相互に提供できるものを確認（連携型事業の可能性）
- ・音楽・美術を通じた、子ども向けの教育プログラムの場としてもふさわしい
- ・資金については、国等の助成金や民間からの協賛も含めて可能性はある
- ・芸術大学としての要望・・・音だしOK、汚してもOK、プレイガイドの設置

愛知県立大学

- ・大学間のボランティア活動の情報交換・連携の場としての活用（活動促進の場）
- ・愛知県のリニモ沿線地域づくり事業との連動（リニモ沿線の他市との連携の拠点）
- ・ボランティア支援の場（他の大学の活動を見るだけでも意味がある）
- ・大学が動きやすいのは授業の一環として行うこと＋市からの依頼＋大学のPR

愛知淑徳大学

- ・学生にとって、横断的話し合いができる常設の拠点（たまり場）は意味がある
- ・学生と社会をつなぐ核になる人が、その場にいると化学反応が起きる
- ・情報集約と発信の場（6次産業など新しい枠組みへの興味、ボランティアの不足の解消に役立つ情報共有）
- ・学生の移動に係る金銭的負担の軽減策の検討

愛知医科大学

- ・病院としては、初期診療の場としての活用が一番貢献できる
- ・大学としては、健康チェックなどで学生を派遣することには前向き（勉強になる）
- ・瀬戸の大学コンソーシアムなどのような連携と支援は検討可能。連携テーマがはっきりすればどんなことで協力できるか提案できる

「大学連携」について

DoNabenet in Aichi

活動内容

顔の見える関係を作ることが身近な人や地域を守ることにつながると考え、2～3か月に一度、食事会を開催。3. 11震災後、岩手県立大の学生らが地域で行った活動にならい、地元住民との絆を深めるきっかけにしようと企画

活動拠点

「西小校区共生ステーション」にて開催

課題など

- 広報の必要性(多くの人に活動を知ってほしいから)
- 鍋に必要な野菜などを提供してくれる農家さんや、活動的な他団体さんなどつながりたい

リニモ沿線合同大学祭実行委員会

活動内容

地域のつながりをつくるために、沿線大学の学生が集まって活動

活動拠点

通常の打合せは「長久手市まちづくりセンター」で行い、イベントの際は「モリコロパーク」「リニモ各駅」を利用

課題など

- 長久手には市民活動がたくさんあるので、情報発信の場が欲しい。「ここに来たら長久手のすべての活動がわかる」というくらいのも
- 年々メンバーが減少しているため、「リニ祭」の知名度を上げメンバーを増やしたい。そのためには他団体との交流や地域活動への積極的な参加が必要

SCCC(Student Community Collaboration Center)

活動内容

団体を、学生と地域住民が共に考え、共に学び、共に活動することができる場と位置づけ、長久手をふるさとと呼び合えるきっかけづくりを支援する活動

活動拠点

「長久手市まちづくりセンター」にて会議を行い、各大学のメンバーと情報交換を実施

課題など

- 市内で学び、活動する人びとと出会うことができる場が欲しい
- 人と人をつなげてくれる人(コーディネーター?)の必要性
- (気軽に)ミーティングできる場、活動・検討課題などの情報がストックされていく場、など

「観光交流」について

長久手市観光交流協会

活動内容

第2次長久手市観光交流基本計画における、長久手オリジナルの観光交流“「いい日常」から生まれる観光交流”の具体化に向け、始動を開始したばかり。活動テーマを「人おこし」とし、市民特派員により長久手に内在する「いい日常」の原石を集める活動から開始する予定

活動拠点

事務局を、長久手市役所産業課内に設置

課題など

- 市民特派員などが集まれる拠点の必要性
「情報集約」「情報交換」「企画(編集)会議」「発信」の場所
- 「いい日常」観光の具体化としくみづくりの推進、その情報を「見える化」する
発信の場(交流拠点)の必要性



- 上記の場・拠点がプラットフォームとなり、学生、子育て世代、外国人、各種市民活動団体など、市民同士の交流を促す推進役になり、まちづくりにおいて「行政に依存しない市民主導のまち・長久手」への第一歩にしていきたい

「多文化共生」について

長久手市国際交流協会

活動内容

市民を対象に国際的な事業を提供し、国際感覚、視点開発の啓発などを行っている

活動拠点

市内の公的な施設各所
英語絵本の読み聞かせ・・・北小学校
日本語教室・・・西庁舎、西小校区共生ステーション
事務局を、長久手市役所たつせがある課内に設置

課題など

- 多くの人が集まる場所で、国際感のあるブースなどを展開し、国際交流協会をもっと市民に認知させたい
- 会員が利用したい時は、(事務局に頼めば)いつでも利用できるような日本語リソースルームがあると便利
- 調理機能のある部屋や軽い運動ができる場所があると活動の幅が広がる

「子育て支援」について

子育てサロン「メープル」

活動内容

妊婦や母親が、助け合い楽しみながら育児を充実させる空間を創ることを目的に月に2回程度集まり活動している

活動拠点

「長六集会所」、「西小校区共生ステーション」、「段ノ上集会場」等

課題など

【団体としての課題】

- 安定した活動場所の確保、スタッフ不足、活動メンバーの円滑な世代交代
- 遊具や備品などを、その都度運ぶことも負担(拠点があると便利)
- 他団体との交流など、グループ同士をつなぐ調整役が欲しい

【リモテラスへの期待】

- 子どもをゆったりと安心して遊ばせられる遊具(柔らかいブロック、ボール等)のある施設
- いろんな世代の人と一緒に居られる空間(こちらに関心を持った人と交流できる)
- 中の様子が見える等の入りやすい雰囲気
- 予約なしで参加できる1コイン程度の体験教室(子どもと一緒に参加できるものや、子どもに教えられるような講座など)
- 子どもの将来に役立つ情報として、市内の大学がどんな研究などを行っているか知りたい(市民や子ども向けの大学紹介イベントなど)
- 授乳室等が整備され、乳幼児を連れていても安心して過ごせる場所
- 長久手市のさまざまな情報を知ることができる情報基地
- 親子でほっとする時間を過ごせる場所

第3章

利用されるリニモテラス公益施設に向けて

前2章における整理を背景とし、リニモテラス公益施設の位置づけやコンセプトの設定に資する意見を、市民のみなさんから幅広く収集するため、積極的な意見交換が行われる場の設定やヒアリング・アンケートなどを実施。その内容及び本計画策定委員会での意見を本章において整理する。

1 策定委員会、市民やまちづくり団体からの意見募集

本計画を策定するにあたり有識者、4つのテーマの主体者、公募市民等で構成されるリニモテラス公益施設整備基本計画策定委員会を設置し、本計画の内容について検討を重ねました。

また、4つのテーマの他にも市民やまちづくりに積極的に活動している団体からの意見、アイデアを集めるため、アンケート・ヒアリング、トークセッション・シンポジウム及びポスター掲出を行いました。

【調査手法】 ①アンケート・ヒアリング

各種団体を対象に、それぞれの現状調査を行うとともに、リニモテラス公益施設の概要を説明し、その場において口頭で意見交換を実施した。欠席者等については、アンケート用紙を用いて情報を収集しました。

②トークセッション、シンポジウム

市民にとってどんなリニモテラス公益施設となったらよいと思うか、その意見・アイデアを広範に収集するため、自由参加のトークセッション・シンポジウムを実施。当該施設の方向性を導き出すのに有益なゲストを招き、全国各地の場づくりについての先進事例を紹介し、参加者からの意見を引き出しやすくするとともに、あわせてアンケートも実施しました。

③ポスター掲出

広く市民に、リニモテラス公益施設を知ってもらい意見を募集するため、目に留まりやすいデザインでポスターを制作し、リニモ全駅など市内の各所に掲出。当該施設がどんな施設だったら良いかを、用紙及び市ホームページ上で、アンケートを実施しました。

【リリモテラストークセッション～「場」をつくる！「場」に出会う！～】

リリモテラストークセッション

地域交流の拠点って・・・

リリモ「長久手古戦場駅」周辺を新たなまちの玄関口とし、訪れる人々のおもてなし空間とします。その中心となる公益施設の整備についてみなさんも一緒に考えてみませんか？



講師：宇田川 裕喜

株式会社バウム代表取締役、クリエイティブPR（パブリックリレーションズ＝世の中との繋がりをつくる）ディレクター。こどもの頃の憧れの職業は区役所の「まちづくり推進課」。大学に入り、環境雑誌記者として企業を取材しつつ、世界中を旅した。PRプランナーを経て、2011年「場生む」ことを目的としたクリエイティブ会社バウムを立ち上げる。



「場」
つくる × 出会う

講師：PENターン女子
（根岸えま、佐々木美穂、小野香織）

大学在学中（それぞれ東京、関西、仙台）に気仙沼市唐桑半島の復興まちづくり団体「からくわ丸」に参加。その後、大学4年生となり就活、そして内定をもらうものの、悩んだ末、唐桑に移住。各自、仕事を見つめながら休みに漁業をはじめとした様々な復興ボランティアを続けている。在学中に知り合った3人で空家をリノベーションして暮らす。！ターン、Uターンではなく半島（peninsula）に移住したのでPENターン女子として注目されている。

11.21 (sat)
14:00 start!!

場所：西小校区共生ステーション
時間：14:00～16:00



コーディネーター：林 大策
（愛知淑徳大学交流文化学部准教授）



【リリモテラスシンポジウム～「場」をつくる！「場」に出会う！Vol.2～】

リリモテラス
シンポジウム
Lilimo Terrace Symposium

新たな市民交流の場 リリモテラス公益施設（仮称）
にみなさんのご意見を！

をつくる！
に出会う！
VOL.2

長久手市では、リリモ「長久手古戦場駅」周辺を新たなまちの玄関口とし、訪れる人々のおもてなし空間となるよう整備していますが、その中心に「リリモテラス公益施設（仮称）」の建設を予定しています。長久手市の玄関口にふさわしい「場」とは何か？「連携」や「交流」をキーワードに、新たな場づくりを実践するゲストを招き、その事例を聞きながら、リリモテラス公益施設を、どんな「場」にすべきか、皆さんのご意見を聞かせてください。

Paneler

田中 大介
Tanaka Daiichi

古橋 敬一
Furukawa Kenji

小林 拓一朗
Kobayashi Tatsuro

内線寺商店街で長年営まれてきた老舗喫茶「西アサヒ」が
カフェレストラン&ゲストハウスとして生まれ変わった！

近江外国人向けに、海外の旅行会社と提携し日本の魅力を先かした旅行商品の企画・販売
を行う一方で、自治体や観光地向けに観光振興のアドバイザーを務める。モットーは「人と
人、人と文化の出会いを通じて豊かな観光と人々の幸せを実現する。」

名古屋の港まちで、これからの「まち」についてみんなで考える
「ポートラックスクール」を開設！

学生時代からまちづくり活動に関わり、愛知万博では、NPO組織としてテュルワールドカ
フェ＆オーガニックガーデンに参事。2008年より、名古屋市内でまちづくり協議会等
積極活動。「なごやのあ（人）」を目標にしたまちづくり活動を展開中。

coordinator

オゾン市立大学卒業生であり、ポートラックスでもよく知るZ世代のなかで活動中
のタチアサ。オゾン市立大学卒業生のなかで、キャンパスライフ・ステーションで1年
間活動。2019年よりNBL (National Basketball League)「アイン・シーホース三
河」の専属ホームコートダンサーを務める。

2016
1.24
Sun
10:00-12:00

参加無料・申込不要

会場 愛知県長久手市
まちづくりセンター2階会議室1
〒480-1121 長久手市武蔵101番地3
※リリモ「古戦場公園駅」徒歩10分
※駐車場には限りがあります。乗り合わせや
公共交通機関でのご来場にご協力ください。

会場 問い合わせ
長久手市 くら文化財たつせがある課
tel / 0561-56-0602
mail / tatsuse@city.nagakura.lg.jp

ポスター掲出

問

NAGAKU - TEST

リニモテラス公益施設(仮)
どうしますか?

KEYWORD 大学連携 観光交流 多文化共生 子育て支援 etc...

長久手市ではリニモ「長久手古戦場駅」周辺を新たなまちの玄関口
その中心には「リニモテラス公益施設(仮称)」の建設を予定
「連携」や「交流」をキーワードに、どんな「場」にすべきか、

とし、訪れる人びとのおもてなし空間となるよう整備しています。
しています。長久手市の玄関口にふさわしい「場」とは何か?
みなさんのご意見を聞かせてください。



「場」とは、経験・体験を共有する
ところ。その共有によって、「関係」
が生まれる。どんな体験をすれば、
どんな関係が築けるのか。それを
意識して場づくりを行っている。

株式会社バウム 代表
宇田川 裕喜氏

2015年11月21日に開催
された「リニモテラーストック
セッション」の際の、ゲスト
& パネリストの意見もぜひ
参考にお考えください。

明日出会う人が、自分の人生を変える
かもしれない(根岸)。顔の見える
関係性の中で人は変わる(佐々木)。
移住者と地元の人との出会いの場が
地域に必要な活動が生まれる拠点
に(小町)。

PENTーン女子
根岸 えま氏/佐々木 美穂氏/小町 香織氏



大学で学んだことが地域にとって
何か役に立つのか、どんな意味が
あるのか。懐疑的に思っている人
が多いので、それが実感できる場
づくりがしたい。

大学生/SCCC 代表
藤本 涼子氏



巡回りをしても多くの市民の意
見を聞く施設づくりをするべきだ
と考えている。足腰の強いまちづ
くりをすれば、自然とまちに物語が
生まれ、それがまちの魅力になる。

長久手市長 吉田 一平氏



顔の見える関係をつくりたい。きつ
かけは、震災での安否確認。顔の
見える関係の大切さに気付いた。
関係性を育む「場」が必要。

大学生/DoNabe Net in あいち
代表 飯田 諒子氏



子育てと仕事の両方で忙しく、地
元に縁がない。震災などがあつた
らという不安もあった。その意味で
地元の人たちとつながる「きっかけ
=場」が必要では。

なでラボ/主婦
春山 由加里氏



まちづくりに対しこれだけ熱い人が
多いのは、長久手の大きな財産。自
分たちのふるさとをつくる。そういう
想いを実現する場として、リニモテ
ラスが機能すると面白い。

なでラボ/
デザイナー
野田 真士郎氏



ちょっとしたことで何かをすると、
それだけで人は興味を持ち、多く
の人が集まり「場」が生まれる。リ
ニモテラスも、人から見られること
をどんどんやるべきだ。

なでラボ/造園業
中尾 真也氏



大学同士の横の関係をつくろうと活動
している。やってきたことをストックし
ておける拠点があれば、次の世代に残し
ていけるし、卒業していった人も戻って
こられる。

大学生/なでラボ/リニモ沿線合同大学寮
実行委員会 代表 岡田 百合香氏

みんなでつくるリニモテラス。あなたのアンサー、求む。

回答方法

回答期日 1月末日まで

① アンケート用紙から

チラシ裏面アンケート用紙にご記入の上、下記問合せ先に
直接持参、郵送またはFAXにてご提出ください。

② 市ホームページから

<http://www.city.nagakute.lg.jp/tatsuse/rinimoteras/nagakutetest.html>
にアクセスし、アンケートに回答してください。右のQRコードからもアクセスできます。



③ パブリックコメントから 回答期日 2月15日(月)~3月15日(火)まで

リニモテラス公益施設整備基本計画(案)についての意見を募集します。
提出方法等の詳細は市ホームページにて1月末頃公表します。

2 関係団体・市民、策定委員会等から得られた意見

基本計画策定委員会

第1回リニモテラス公益施設整備基本計画策定委員会

■日時：平成27年11月16日 ■午後4時～6時まで ■場所：西庁舎3階学習室1・2

＜各委員からの意見＞

- ・リニモテラスと、その前の広場（公園）を一体的に使用すべき
- ・古戦場公園という場の持つ歴史的背景とのつながりが必要
- ・何かしたい、人の役に立ちたいと思っている人の活動の場
- ・子育て世代がつながってられる場
- ・大学生同士が学校を越えて何かを発信する場となればよい
- ・大型商業施設の集客力を活かしたい
- ・学生の活動をバックアップする機能、何かのきっかけとなる場
- ・今の時代に合ったメディアの使い方で長久手らしい情報発信を行う場

第2回リニモテラス公益施設整備基本計画策定委員会

■日時：平成27年12月8日 ■午後6時～8時まで ■場所：西庁舎3階学習室1・2

＜各委員からの意見＞

- ・4つのテーマは難しい。
 - それぞれの枠を区別せず、多様性があれば、つながり交流は生まれる。
- ・しくみづくりが重要
 - 人がつながり化学変化を促すしくみ。コーディネーターの必要性
 - 変化に対応できる柔軟性のあるしくみ。
- ・出会い交流できる場
- ・きっかけができる場

リモテラストークセッション／リモテラスシンポジウム

リモテラストークセッション～「場」をつくる！「場」に出会う！～

■日時：平成27年11月21日 ■午後2時～4時まで ■場所：西小校区共生ステーション

- ・出会うことができ、交流、つながりが生まれる場
- ・気軽に気楽に行ける場
- ・古戦場との連携の必要性

【しくみ】

人が集まりさまざまな出会いがある場

- ⇒ 出会った人たちが経験・体験・価値観を共有
- ⇒ 交流・つながりが生まれ、事業を含めたアクションを展開
- ⇒ 多様なアクションが場の魅力となり、シティブランドを構築
- ⇒ こうした活動の総体が公益性につながり、まちづくりに貢献

リモテラスシンポジウム～「場」をつくる！「場」に出会う！Vol. 2～

■日時：平成28年1月24日 ■午前10時～12時まで ■場所：長久手市まちづくりセンター

- ・学生を軸に、子ども、親、高齢者、外国人などが多様な協働を行う場
- ・学生が学んでいること（インプット）を社会に役立てる場（アウトプット）
- ・長久手の魅力発信の拠点のほか、愛知の田舎の玄関口としての機能（広域観光）
- ・大型商業施設と真逆の発想・・・アナログ空間、自分で作り上げ楽しめるしくみ
- ・市民の意見を継続的に聞いていくしくみ、市民を運営に巻き込んでいく
- ・地元プロジェクトの継続的な発信の場、まちづくりの社会実験の場

【多かった意見】

- ・いつでも、自由に気軽に入れる場
- ・多世代の人たちが交流できる場
- ・活動・発信の場、にぎわいの場

市民・学生団体

ういういの会

- ・知識が増える感動のある場
- ・ソフト面(担い手、しくみ等)の重要性
- ・市のすべての情報を集約し、発信している場
- ・例えば知の拠点→大学出張授業があっても良い
- ・長久手市＋近郊の情報を大量に集めて発信

DoNabenet in Aichi

どんな機能があったらよいか

- ・子どもからお年寄りまで気軽に集まれる場
- ・ボランティア活動をしている人が使える場
- ・他大学、他ボランティアとの交流の場
- ・100人位は入れる会議室(食事会のできる部屋)

どんな使い方がしたいか

- ・公園でピクニック、Donabeでお食事会＋子どもたちと公園あそび、お祭りなど
- ・屋上緑化スペース作ってもらいたい(隠れ家みたいな場所)

リリモ沿線合同大学祭実行委員会

どんな機能があったらよいか

- ・Wifiがほしい。情報を集めることはもちろん、リリモテラスに来られない人ともやり取りが容易
- ・留学生と大学を超えて交流できる場所にしたい
- ・自由に使えるパソコン、貸出テント、情報ストックしておけるスペースなどがほしい。

どんな使い方がしたいか

- 大学でも行わないような講座などに参加したい

SCCC(Student Community Collaboration Center)

どんな機能があったらよいか

- ・コワーキングスペースのようにオープンな雰囲気
- ・人に出会うことができる場
- ・応援してもらい、応援することができる仕組み、人
- ・企画し、実行することができる仕組み、場
- ・発信、活動発表することができる場
- ・市内の情報集約の場
- ・何度でも、どんなライフステージになっても利用できる仕組み

どんな使い方がしたいか

- ・大学間のつながりを密にして自己実現できる場

長久手市国際交流協会

どんな機能があったらよいか

- ・気軽にトランポリンやバドミントンができる場所がほしい
- ・インフォメーションコーナー（相談できる場）
「長久手めぐり観光相談」「国際交流ホームステイビジット相談所」「外国人のための相談所」「子育て・生活・ボランティアなどの相談」
- ・土・日・祝は交流イベント、平日は体験・物販ブースなど

どんな使い方がしたいか

- ・種々の団体が参加する大交流会
- ・公園には、ロッククライミング、スケートボードなど

その他の団体、イベントでのアンケート

どんな機能があったらよいか

- ・古戦場公園に隣接していることから長久手の歴史を発信する場
- ・フューチャーセンター機能
- ・木づくりの施設、みんなでDIY
- ・古戦場公園との環境・景観連携
- ・あらゆる世代の人が集えるコミュニティスペース

どんな使い方がしたいか

- ・定期的なダイアログの場

市民等から寄せられた意見

チラシ回答者 108名 ホームページ回答者 32名 ながモニ回答者 70名 その他

【どんな場になればよいと思うか】

にぎわいの場、活動・発信の場、やすらぎの場がトップ3。遊びの場、学びの場がそれに続く。子どもにとってのあそび場、若い世代にとってはにぎわいの場、高齢者にはやすらぎの場など、世代によって若干分かれる。

【あったらいいと思うもの】

大型映像機器、Wi-Fi、キッチン、スポーツ遊具など

【具体的なイメージ】

- ・ふらっと立ち寄り、思わぬ何かが発見できる場
- ・夜でも明るく安全な場所
- ・静かで落ち着ける場
- ・若者のクリエイティビティが発揮できる場(化学反応によりワクワクするような場)
- ・市民が自由に使えるオープンスペースがたくさんあるといい
- ・災害ステーション(災害時の知恵が学べる場所)
- ・情報の受発信の場(国内外の交流が活発になるような場)
- ・休みがなく、朝早くから夜遅くまであいている施設
- ・市民が優先的に使えるようなシステム
- ・図書館の機能
- ・お仕着せの機能より多様な使い方ができる場
- ・子どもたちが安全に安心して遊べる場、それと共に学べる場
- ・まちの多様な情報を引き出せる場、旬の情報がわかる場、情報や地域案内のコンシェルジュ的な人がいる場
- ・新住民がまちに接点を持つ拠点
- ・寝そべったりできるニューヨークのセントラルパークのイメージ
- ・大学生などが、小・中学生の勉強をボランティアで教える場
- ・公共交通の要所
- ・安らげる場であり、ゆったりと交流できる場

多かった意見を取りまとめると

多世代交流の場

大学生の活動拠点

自らの活動の発信の場

創造と学びの場

のんびり過ごせる場

開放感のあるオープンスペース

市の情報を集約・発信する場

3 先進事例、類似事例のまとめ

市民の積極的な施設利用により、まちの活性化につながった事例をはじめ、市民主導によって施設機能が高まった先進事例を紹介し、リニモテラス公益施設の参考とします。

場の作り方・合意形成のプロセス・運営管理手法を学ぶ

姫路駅北駅前広場(兵庫県姫路市)

市民が関わるパブリックスペースのデザイン～市民・行政・専門化の創造的連携～

姫路駅前広場活用連絡会を経て、姫路駅前広場の具体的な活用・運用・管理について検討する協議会姫路駅前広場活用協議会を設立。その場で出た意見や構想を具体的なかたちとして実現していくための運営管理組織として一般社団法人ひとネットワークひめじを設立しました。

コワーキングスペースが生み出す可能性に注目

柏の葉 オープンイノベーションラボ KOIL (千葉県柏市)

予想外の使われ方が生み出される、未完成を意図した空間

企業や個人が従来の枠組を超えて協働するプラットフォームのような場所。分野を横断するコミュニケーションを円滑にするため、一つのワークプレイス内に、集中する・くつろぐ・プレゼンテーションする・作る・食べるなど様々な機能を内包しています。

まちの一部として機能するコミュニティ空間

SHIBAURA HOUSE (東京都)

透明感あふれる「ビル型公園」は、運河の街の新たな憩いの場

近くに暮らす子供や母親をはじめ、会社員、そして海外からのゲストも集まるコミュニティスペースとして運営。1Fは誰でも無料で出入りができる公園のような場として開放。

施設整備から運営まで市民協働のしくみを学ぶ

アオーレ長岡(新潟県長岡市)

21世紀の市民協働型シティホール

アリーナや市役所などが一体となった全国初の複合型交流施設。JR長岡駅前に位置し、長岡駅とは「大手スカイデッキ」と呼ばれるペデストリアンデッキで直結している。市民協働の拠点として多くの人々に利用され、成長し続けるアオーレ長岡は、まちなかの賑わい創出に大きな役割を果たしていることが高く評価されています。

市民のサードプレイスへと育てていくためのしたたかな戦略

まちなかにぎわい広場グランドプラザ(富山県富山市)

何も消費行動を起こさなくても、居続けることのできる「まちなか広場」

まちなかの市道を拡張し、ガラス張りの大屋根がある広場に生まれ変わらせた大英断が、まちに人を呼び戻しました。官のウェイトが強いスタートから民の運営へと足並みをそろえながらの着地により、稼働率100%近くを維持。

※詳しくは、資料編をご参照ください。

第4章

基本計画

第1章～第3章まで、段階的に整理してきた各要素をまとめ、多様な視点から導き出される方向性から、リニモテラス公益施設の位置づけ、施設コンセプトを定めます。さらに、コンセプトを具体化するための、施設整備についての基本方針を設定し、市民主導による施設誕生への第一歩とします。

1 リリモテラス公益施設の位置づけ

(1)上位計画・関連計画等から

リリモテラス構想

長久手古戦場駅周辺を「シンボル・コア」と位置づけ、新たな都市の顔となる拠点を形成

求められる要素

多様な交流

若者・大学生

多世代の混在

情報発信

緑・心地よい空間
サードプレイス

古戦場公園との連携

「リリモテラス公益施設」は

リリモテラス構想のリーディング施設として、求められる要素を、実現させていく場



まとめ
(1)

リリモテラス構想のリーディング施設として…

- 若者を中心に多世代交流を含めた多様なつながりを育む場
- 居心地の良い空間、サードプレイスとしての場
- 新たな都市の顔としてふさわしい、魅力的な場

(2)立地条件等から

交通の結節点を意識した利用 2号公園との一体的な利用
周辺施設との連携（古戦場公園との連携、大型商業施設の集客力の活用）
景観への配慮 地球温暖化・環境共生への配慮



まとめ
(2)

- まちの玄関口にふさわしい情報発信力のある場
- 周辺施設に配慮した景観づくりと相互連携によるにぎわいづくりの場

(3)4つのテーマの現状・課題などから

大学連携

【行政】

- 大学連携推進協議会の活性化につながる場の確保
- 大学×地域(市民・団体・企業など)の連携推進

【関係団体】

- 団体活動の認知度アップ(メンバー増)、情報発信の場の確保
- 他団体との交流・連携による活動領域の拡大、活動の活性化

観光交流

【行政】

- 交流力・発信力のある場づくり
- 「いい日常」観光の具体化(他者との連携の必要性)

【関係団体】

- 「いい日常」観光を、多様な世代の市民との交流によって企画・発信していくためのプラットフォームとなる拠点の必要性

多文化共生

【行政】

- 外国人視点に立った情報サービスの提供方法の検討
- 外国人が参加したくなる機会や場づくり

【関係団体】

- 多くの人が集まる場所でイベントを行い団体の認知度をアップ
- いつでも使える場があると良い

子育て支援

【行政】

- 子どもを持つ親が元気になれる場づくり
- 民間団体との情報交換を増やし支援すべき課題を発見

【関係団体】

- 子育てのストレス解消に役立つ場、役立つ施設
- 子どもとの暮らし、子どもの将来に役立つ取組への参加



まとめ (3)

- 「団体(活動)の周知」「イベント開催」等の情報発信の場
- 「いつでも使える場」「情報ストック」などの活動拠点としての場
- 市民主体のまちづくりに資する多様な交流拠点としての場

(4)関係団体・市民、策定委員会等の意見から

誰でも気軽に入れる、多様な出会いときっかけにあふれた場

トークセッションやシンポジウムに参加した市民や学生団体などから聞かれた意見の多くは、古戦場駅前の好立地をはじめ、大型商業施設、古戦場公園などからなるにぎわい空間の中で、気軽に入れる施設をイメージしています。そこで、さまざまな出会いや新たなつながりが生まれたり、何かを始めるきっかけや支援の場へとつながっていくことを期待しています。

「自らの活動・取組」の発信の場～認知度のアップ、パートナーの確保・増大

市民・学生の団体の皆さんに共通する課題は、それぞれの活動を多くの人に知ってもらい、仲間を増やしたり、主催イベントに参加してくれる人を増やしたいという点にあります。それは、大学連携における各大学にも同様の想いがあり、大学外部での広報(アウトリーチ)への期待値は高いものがあります。

枠組みを超えた「他者」との連携の場～新たな活動へのステップ、課題解決

若い市民や学生の皆さんからは、他の市民団体や企業、地域等との連携により、これまで以上に活動の幅を広げたり、課題の解決を行いたいという意見が出ています。新たな出会いやつながりの場で、これまでにない組み合わせが化学反応を起こし、大きな魅力や結果を生み出すことが期待されます。

「周辺施設等」との連携による魅力創出の場

本施設の上位計画・関連計画、そして立地条件を見るまでもなく、周辺施設等との連携活用は、この場に新しい魅力を付加するという意見が多くありました。歴史に名を残す古戦場、大型商業施設との連携の模索、2号公園の効果的な活用は、施設の可能性を高めます。

4テーマそれぞれの活動の場への期待～特に横断的な大学連携の拠点

4テーマにこだわらず多様な取組や活動への期待が高い中、4テーマ関連団体などからは、拠点としての利用を好意的に考えています。特に、複数大学による取組の場合、活動拠点の確保は活動者にとって大きなニーズがあることが分かります。



まとめ (4)

- 出会い、きっかけ、後押しなどが生まれる場
- 上記から生まれる新たなつながりにより、魅力的な化学反応が起きる場
- 情報発信の場、活動拠点としての場

(5)公益施設の位置づけ

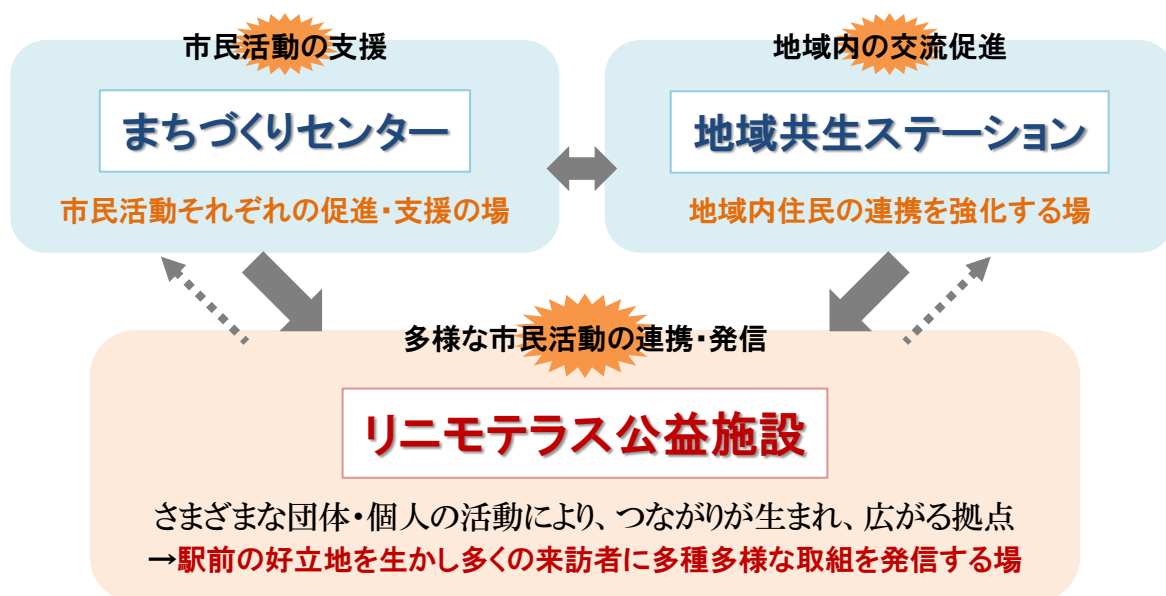
まとめ(1)～まとめ(4)を集約し整理すると

リニモテラス公益施設の位置づけ

出会い、きっかけから生まれる新たなつながりによって、発信力のある
多種多様な取組が生まれ、まちの新たな魅力を形成するにぎわいの場

既存施設とのすみわけ(施設価値の連携)

4つのテーマの関連団体に対するヒアリングで分かるように、活動拠点として利用されている主な施設に「まちづくりセンター」と「地域共生ステーション」があります。リニモテラス公益施設の位置づけを定義し、3施設のすみわけを明確化し、市民活動がさらに円滑に推進されるような効果的な連携が求められます。



市民団体の活動拠点である「まちづくりセンター」と、小学校区ごとの地域課題の解決やつながりづくりの場として活用される「地域共生ステーション」が、それぞれが持つ目的・目標の実現の場として存在する一方、「リニモテラス公益施設」は、長久手古戦場駅から大型商業施設、古戦場公園などへの動線上にある好立地を生かし、それぞれの主体(団体・個人など)が、対外的に発信力のある取組の実施や活動への参加促進にリニモテラス公益施設を利用することで、新たなつながりを生み出す場として位置づけられます。

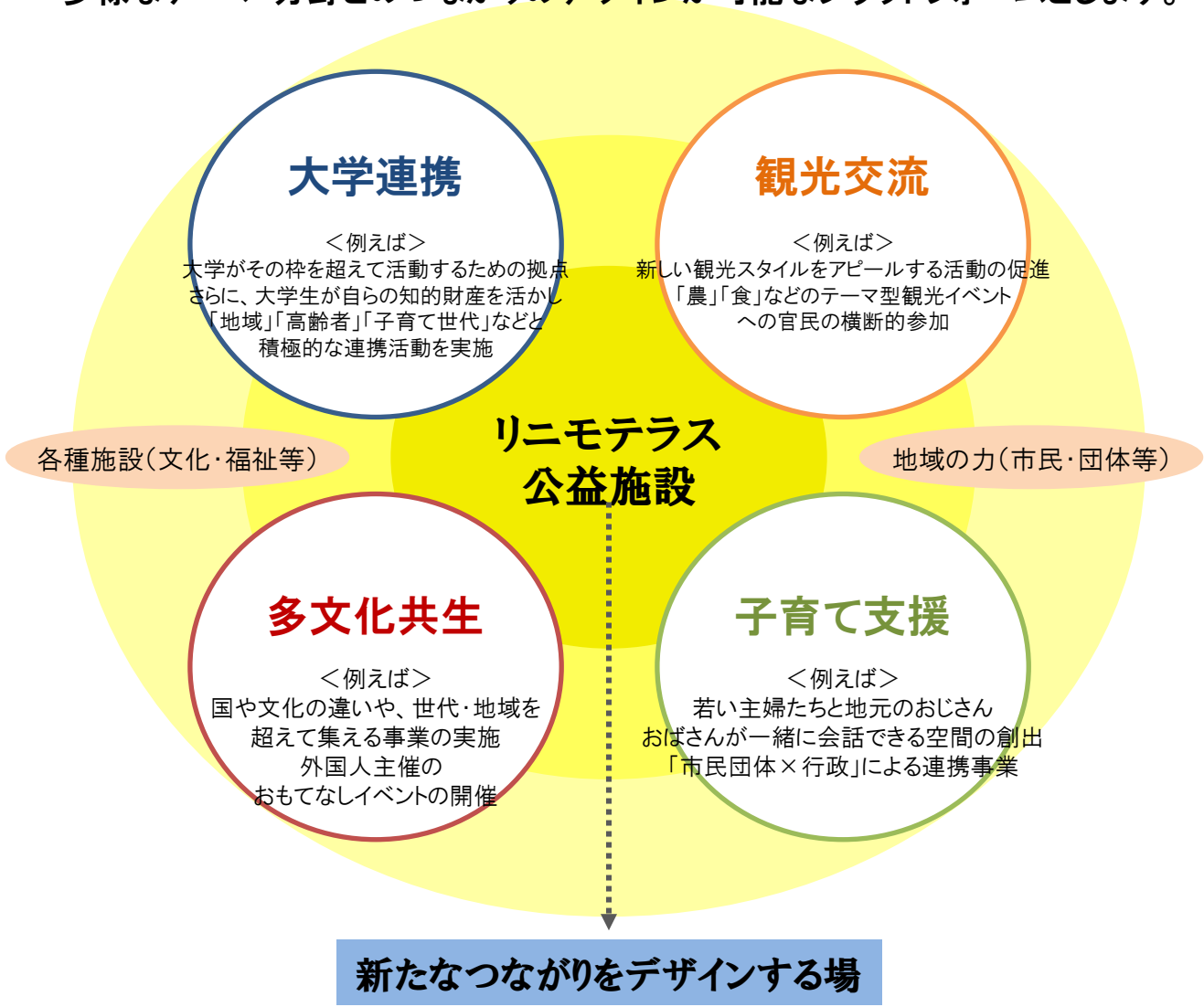
2 施設コンセプト

リリモテラス公益施設の位置づけを受け、施設コンセプトを、以下のとおり定めます。

施設コンセプト

新たなつながりをデザインする場
長久手らしさや若者たちの関心事などから抽出できるキーワードを核に、「学生」「社会人」「主婦」「高齢者」「行政」などがそれぞれの枠に収まることなく、世代を超えて新たなつながりを生み出す場づくりを目指します

リリモテラス公益施設は、4つのテーマを軸にしながらも、その枠にとらわれず多様なテーマ・分野とのつながりのデザインが可能なプラットフォームとします。



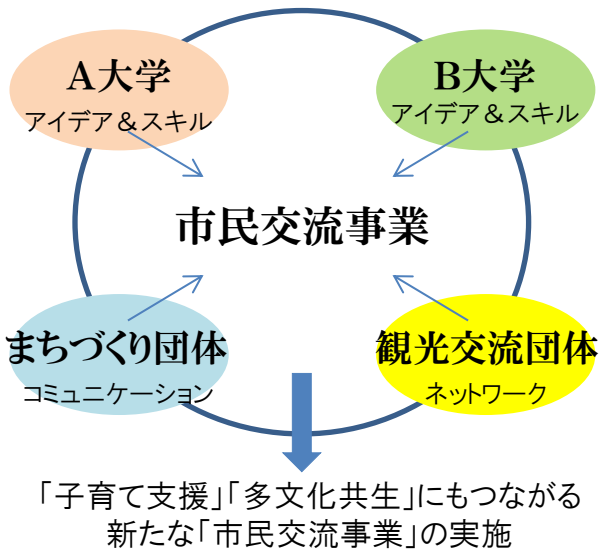
「新たなつながり」による場の魅力の創造

「大学連携」「観光交流」「多文化共生」「子育て支援」は、リニモテラス公益施設の主なテーマではありますが、それらは「新たなつながりをデザインする場」という施設コンセプトを推進する原動力としてのテーマであり、それぞれが枠に捉われることなく連携し、「新たなつながり」を生み出すことで、真の価値を生むものとなります。

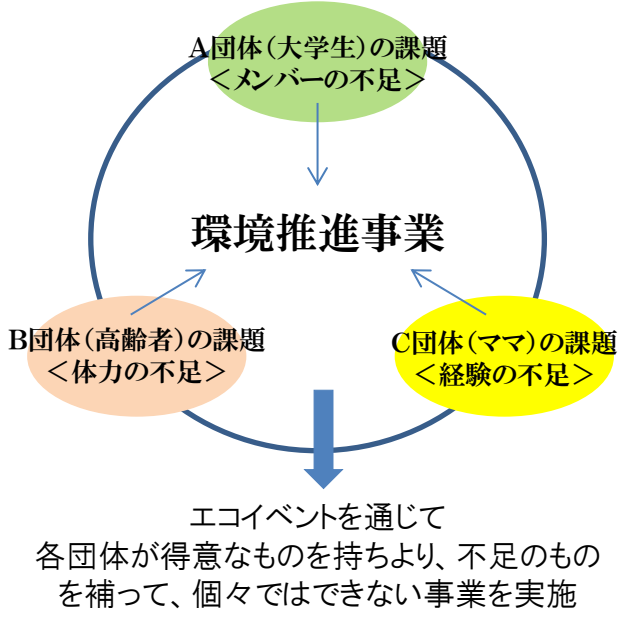
「新たなつながり」のイメージ

下記のイメージは、あくまでも想定です。大きな課題を抱え解決を目指す団体や、新たなステージへのステップアップを目指す団体などが、個々では達成できないハードルを「新たなつながり」によって乗り越えていくイメージを示したものです。これらのつながりは、「人」「情報」「場」なども含めた組み合わせと、結びつきの形態によって無限に広がっていくと考えます。

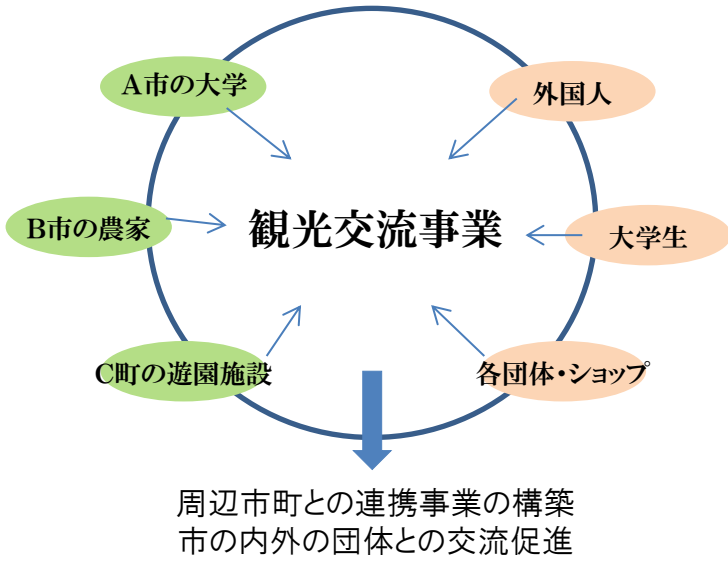
【イメージ①】



【イメージ②】



【イメージ③】



3 施設コンセプトを推進するための3つのしくみ

しくみ1

「出会い」「つながり」を生みだすしくみ

- 誰でも気軽に気楽に集える場 ⇒ 立ち寄りやすい雰囲気、外に開かれたオープンな利用
- きっかけを提供する場 ⇒ 多種多様な利用主体による参加型コンテンツの実施
- 多くの人とのつながりを育む情報発信の場 ⇒ 多様な主体者の情報集積とその発信活動
- 誰もが行きたくなり、活用したくなる施設魅力度の高さ ⇒ 優れた施設デザイン
- 誰もが使いやすい自由度の高いルールづくり ⇒ 利用者視点に立った管理・運営体制

多様な主体が関与する**市民主導の運営組織体制**の検討・構築

しくみ2

つながり・連携による「多彩な取組」を促すしくみ

団体相互の垣根を越えた出会いを促す取組や、これまでにない連携構造による公益的事業の実施など、「新たなつながりのデザイン」を促し、発展させていくしくみ

施設コンセプトの発信につながる「**リーディングプロジェクト**」の検討
つながり・連携による**化学変化を仕掛けるコーディネーター**等の必要性

しくみ3

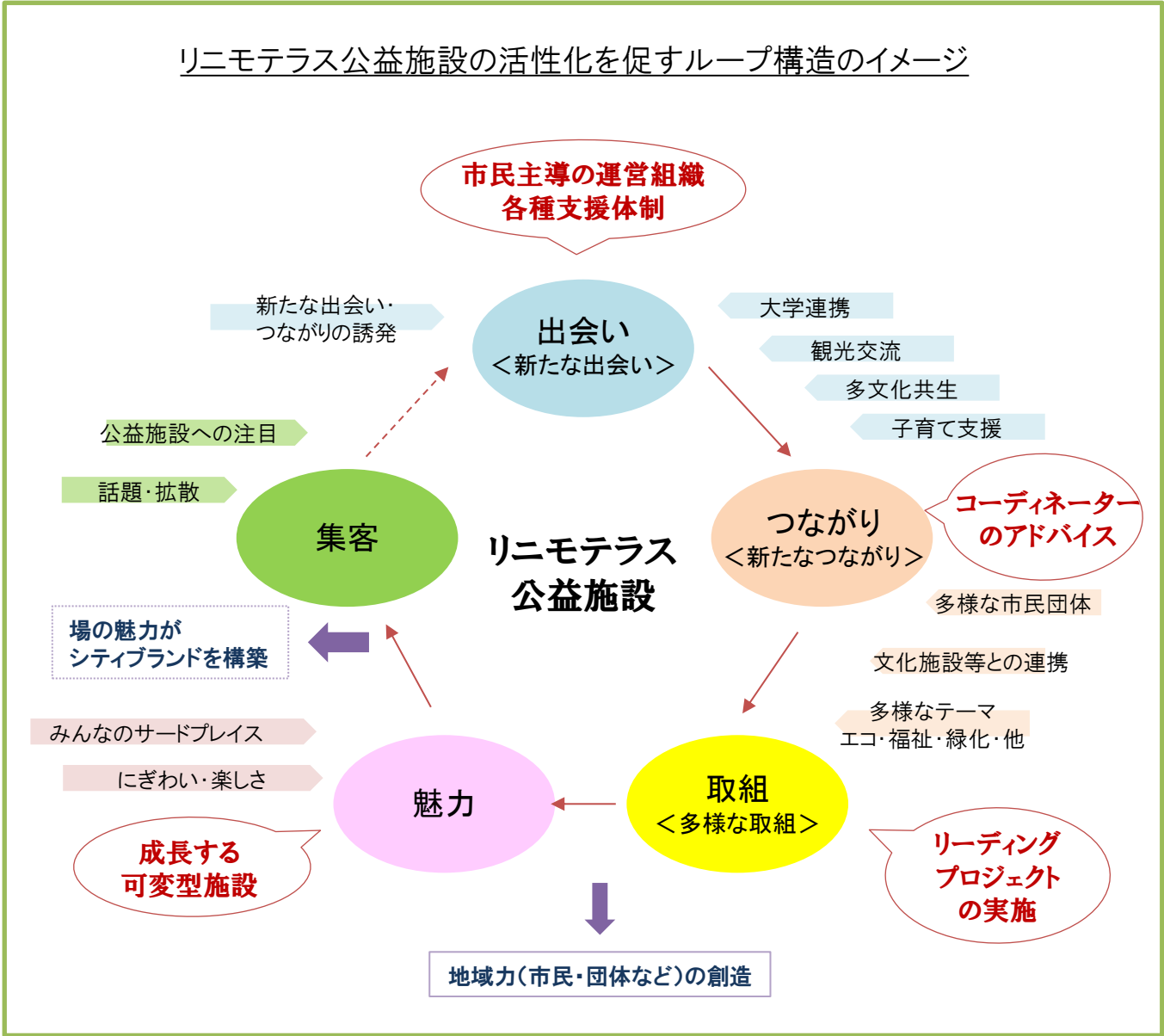
場における「つながりの魅力」を継続・成長させるしくみ

- 使い手が成長していくために必要な資源の供給あるいはアドバイス ⇒ 多面的な情報支援
- 柔軟性のある施設づくり ⇒ 未完の場(成長する公益施設)としての位置づけ

市民主導による公益事業を推進するための**中間支援体制の確立**
「場」の成長過程にリンクした**施設の可変性**の確保

3つのしくみを推進役とした「場」の成長構造

リリモテラス公益施設の活性化を促すループ構造のイメージ



3つのしくみを背景に、4テーマを中心とした取組が場の魅力・集客へとつながり、多様な公益性を創出

4つのテーマを中心としたさまざまな市民・団体会い、新たにつながることによって生まれる多様な取組をリリモテラス公益施設で発信することによって、場の魅力が高まり集客につながります。人が集まることにより、さらに新たな出会いが生まれるループ構造が形成され、このループ構造を継続、発展させていくことによって、リリモテラス公益施設という「場」が成長していきます。

また、このループ構造により、横断的なつながりが形成され、多様な取組が実施されていくことにより、地域力の創造、シティブランドの構築等さまざまな公益性につながっていくと考えられます。

4 施設整備の基本方針

施設の整備についての基本的な方針を下記のとおりとします。

開放感

屋上緑化によるくつろぎ空間の創出
外から中が見える施設づくり
屋外の公園との一体的な活用ができる構造

未完の場

フレキシブルな会場利用ができる空間づくり
成長する公益施設→利用欲求の変化への対応力

連携構造

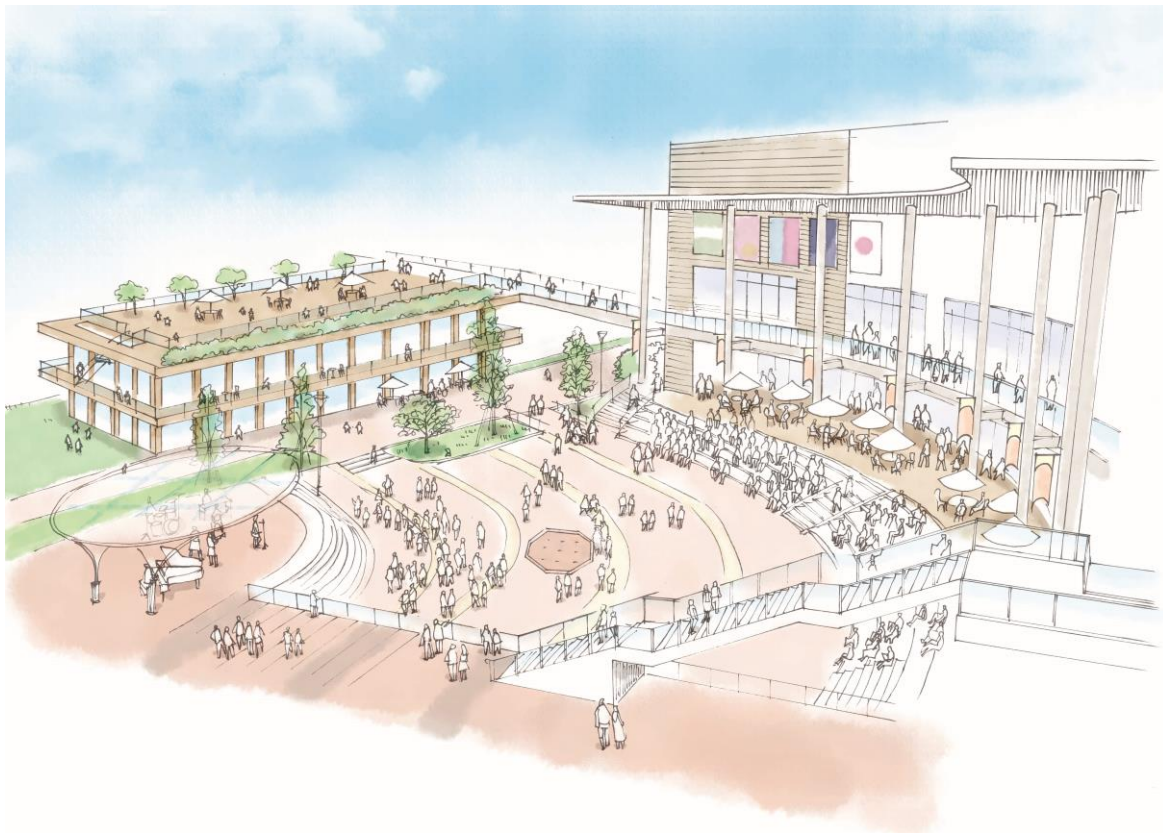
施設と2号公園の連携活用の促進
商業施設の集客利用→デッキ等の動線確保
古戦場公園等との景観配慮

環境への配慮

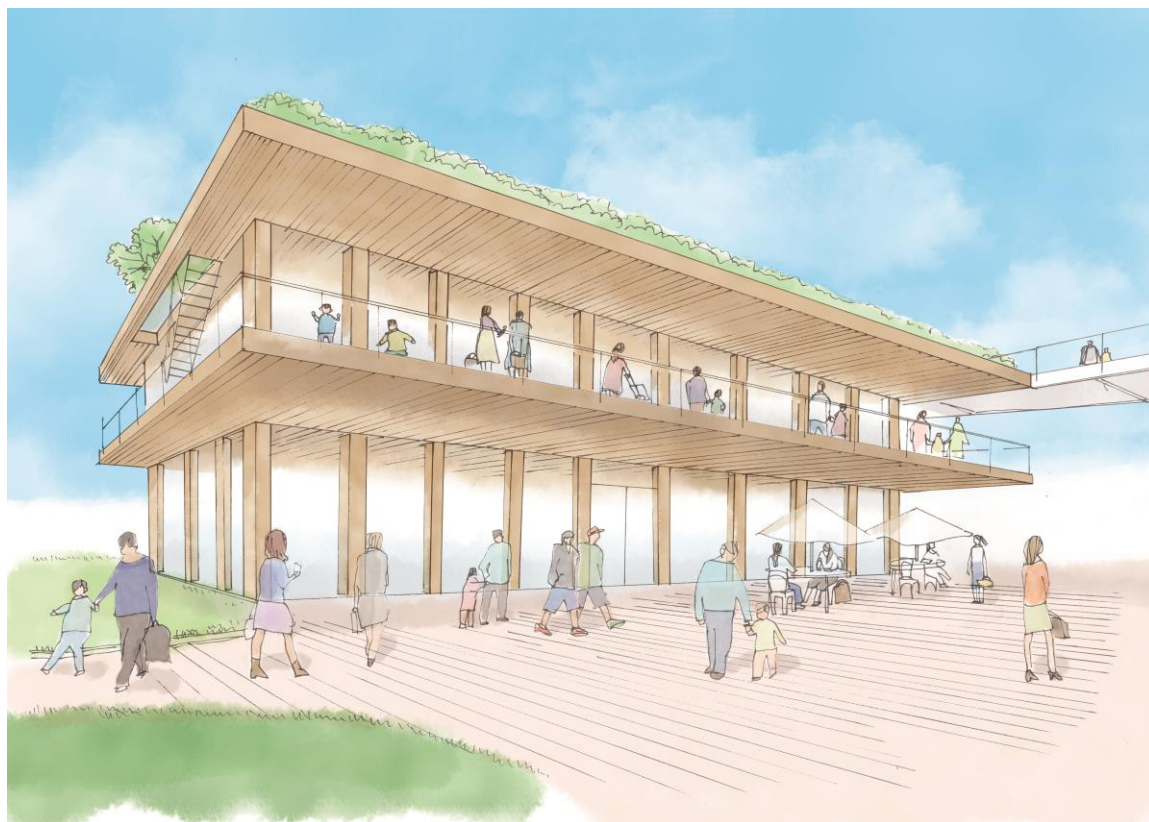
壁面緑化や木質構造など、自然との親和性への配慮
雨水利用、太陽光発電など、資源の有効活用

5 施設イメージ(案)

全 景



近 景



6 施設運営について

本市にふさわしい運営管理手法の検討

リニモテラス公益施設の管理・運営については、「市民主導」の考え方を基本に、多くの全国事例などを参考にしながら、多様な主体とのつながり・連携を可能にする、施設コンセプトに最もふさわしい手法を採択します。

【運営管理の手法一例】

■市民主導による運営体制

市民団体・公益団体などの参加による運営協議会の設立

市民レベルでの合意形成、市民自治意識の高揚など、多様な市民団体の参加により、私たちのリニモテラス公益施設という意識を強化



運営協議会の意向を受けて、日常の運営（管理）を行う事務局を設置

■「つながりのデザイン」を促すアドバイザー

運営協議会の嘱託として、団体同士の連携コーディネート、事業具体案に対するアドバイス、施設利用を喚起するファシリテーション、公益施設にふさわしい事業提案など、さまざまな活動主体のつながりをデザインする仕掛け人を登用し、リニモテラス公益施設の魅力を強化

7 今後のスケジュールについて

リニモテラス公益施設の整備については、以下のスケジュールで進めていく予定とします。

平成27年度	基本計画策定	
平成28年度	基本・実施設計策定	管理・運営方針の検討
平成29年度	工事着工	管理・運営準備期間
平成30年度	施設オープン	

発行
編集

平成28年3月
長久手市
くらし文化部たつせがある課
〒480-1196
長久手市岩作城の内60番地1
TEL 0561-63-1111
